

# 県内女性意識調査

## 調査結果

1. 県民意識調査の再分析 .....	1
1.1. 令和3年度 県民意識調査 .....	1
2. WEB アンケート .....	2
2.1. 本報告書中の記号等について .....	2
2.2. 仕事とキャリアに関するアンケート調査 .....	3
2.2.1. 回答者の属性 .....	3
2.2.2. アンケート結果 .....	3
問1 あなたが今就いている仕事の職種を教えてください。 .....	4
問2 あなたが今の仕事に就職した理由は何ですか。 .....	4
問3 あなたが今就いている仕事は希望通りの職種でしたか。 .....	6
問4 今の仕事はやりがいを感じる仕事ですか。 .....	8
問5 あなたにとって働き甲斐を感じる職場とはどのようなものですか。 .....	9
問6 あなたご自身のキャリア形成に対する考え方についてあてはまるものを選んでください。 .....	10
問7 あなたご自身のキャリア形成に対する考え方についてあてはまるものを選んでください。 .....	11
問8 あなたが最後に卒業した学校について教えてください。 .....	13
2.3. 子育てに関するアンケート調査 .....	14
2.3.1. 回答者の属性 .....	14
2.3.2. アンケート結果 .....	15
問1 あなたと一緒に暮らしている人をすべて選んでください。 .....	15
問2 お子さんの人数を教えてください。 .....	16
問3 一番下のお子さんであてはまるものをお答えください .....	17
問4 お子さんは幼稚園、保育園、認定こども園等に通っていますか。 .....	18
問5 子育てのうち、決まった時間や多くの時間を割かなければならないのはどれですか。 .....	19
問6 前問で回答された子育てに一日のうち合計でどのくらい時間が掛かっていますか。 .....	20
問7 子育てをどのように感じていますか。 .....	21
問8 子育てに関してどのようなサポートを受けていますか。 .....	22
問9 子育てに対して配偶者からのサポートは一週間の中でどの程度受けられますか。 .....	23
問10 あなたは一週間の中で子どもの世話に関わらない自分のためのまとまった時間を持てる日がありますか。 .....	24
問11 前問で回答した自分のためのまとまった時間についての満足度を教えてください。 .....	25
問12 あなたの生活の満足度を教えてください。 .....	26
問13 子育てについて、大変なこと（苦勞すること、困ること）をお答えください。 .....	27
2.4. 社会的つながりに関するアンケート調査 .....	28
2.4.1. 回答者の属性 .....	28
2.4.2. アンケート結果 .....	29
問1 あなたは現在一人暮らしですか。 .....	29
問2 自分は人との付き合いが少ないと感じることがありますか。 .....	30
問3 新型コロナウイルス感染症の流行前と比較して、現在のあなたは人との付き合いが少ないと感じることが増えましたか。 .....	31

問 4	あなたが生活をする上で、他人とのつながりは必要だと思いますか。 .....	32
問 5	どのような人とのつながりが必要だと考えていますか。 .....	33
問 6	人とのつながりを築く上で、課題だと感じることはありますか。 .....	34
問 7	あなたは、日常において孤独や孤立を感じることはありますか。 .....	35
問 8	今のあなたにとって居場所（ほっとできる場所、居心地のいい場所など）はどこですか。 .....	36
問 9	今のあなたの暮らし向き（衣食住などの生活水準）の実感として、あてはまるものをお答え ください。 .....	37
問 10	今のあなたの生活全般における満足度を教えてください。 .....	38
2.5.クロス集計 .....		39
2.5.1.仕事とキャリアについて .....		39
2.5.2.子育てについて .....		41
2.5.3.社会的つながり .....		43
3. 各テーマについての県内女性へのグループインタビュー .....		44
3.1.仕事とキャリア① .....		44
3.2.仕事とキャリア② .....		47
3.3.子育て① .....		49
3.4.子育て② .....		52
3.5.社会的つながり① .....		54
3.6.社会的つながり② .....		56

# 1. 県民意識調査の再分析

## 1.1. 令和3年度 県民意識調査

### ● 設問間分析における多変量解析の詳細について

県民意識調査の県民生活の8領域（健康、安全、居住環境、労働、所得・消費、教育・文化、余暇、福祉・連帯）の満足度を問う「設問 1~43」と、総合的な満足度を問う「設問 44 生活全般の満足度」との関係について、重回帰分析を用いて分析を行った（下図、一部抜粋）。

設問（説明変数名）	回帰係数	標準回帰係数	F値	p値	判定
設問35 自由な時間	0.1154	0.1558	26.920	0.000	**
設問22 家庭の所得	0.1223	0.1553	13.500	0.000	**
設問42 国や県の施策	0.1226	0.1321	15.261	0.000	**
設問39 自然と親しむ機会	0.1309	0.1278	17.253	0.000	**
設問20 仕事のやりがい	0.1147	0.1229	14.419	0.000	**
設問13 住宅の敷地や建物の広さ	0.0777	0.0957	9.819	0.002	**
設問41 行事への住民参加	0.0840	0.0879	8.520	0.004	**
設問05 交通の安全性	0.0733	0.0864	6.289	0.012	*
設問23 家庭の資産	0.0633	0.0745	3.226	0.073	[ ]
設問01 医療	0.0574	0.0640	4.328	0.038	*
設問24 商品の種類や豊富さ	0.0522	0.0557	2.620	0.106	[ ]
設問30 しつけ、家庭教育	0.0609	0.0533	2.472	0.116	[ ]

※標準回帰係数：数値が大きいほど生活全般の満足度への影響が大きい

P 値 : 0.05 以下の場合に、回帰係数に有意性がある（判定欄に\*\*がついているもの）

その結果、生活全般の満足度に対する影響度は、自由な時間が最も大きく、以下家庭の所得、国や県の施策、自然と親しむ機会、仕事のやりがい、住宅の敷地や建物の広さ、行事への住民参加（地域とのつながり）の順であることが分かった。

今回の分析では、個人の所得や資産に関する設問や行政施策全般に関する設問については除外した上で、県内女性が抱える課題についての深掘りを行った。

## 2.WEB アンケート

「仕事とキャリア」、「子育て」、「社会的つながり」をテーマとした Web アンケートを実施した。なお、本アンケートは LINE 株式会社で提供している LINE リサーチを利用している。

### 2.1.本報告書中の記号等について

(S A)・・・単一回答(Single Answer)の略。選択回答は 1 項目のみ。

(M A)・・・複数回答(Multi Answer)の略。回答する選択肢の数に制限を設けている場合がある。

(F A)・・・自由回答(Free Answer)の略。回答者の考えを自由に記入するもの。

n・・・回答者数 (number) を表す。「n =100」は、回答者数が 100 人ということ。

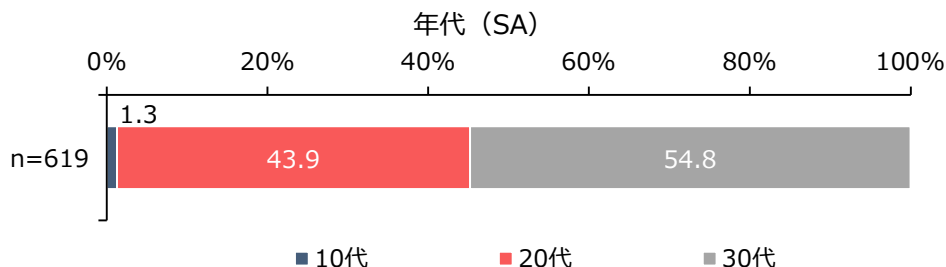
※アンケート結果の数値は小数点第 2 位を四捨五入しており、単一回答であっても合計が 100%にならない場合がある。

※複数回答の場合は合計値が 100%にならない場合がある。

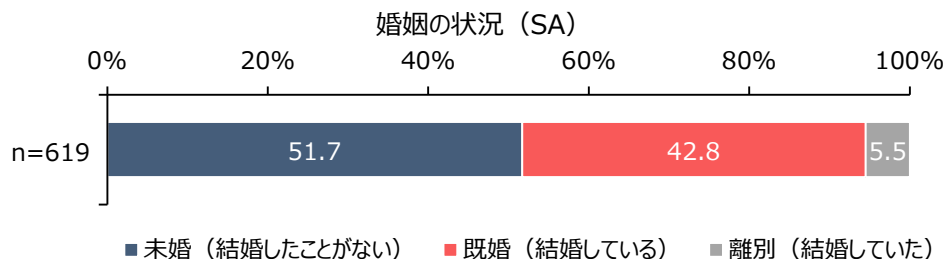
## 2.2.仕事とキャリアに関するアンケート調査

### 2.2.1.回答者の属性

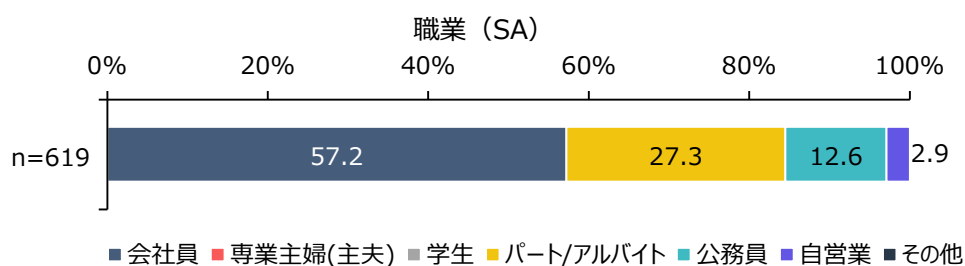
本アンケートにおける回答者の属性は以下のとおりとなっている。



	n	%
10代	8	1.3%
20代	272	43.9%
30代	339	54.8%



	n	%
未婚 (結婚したことがない)	320	51.7%
既婚 (結婚している)	265	42.8%
離別 (結婚していた)	34	5.5%



	n	%
会社員	354	57.2%
専業主婦(主夫)	0	0%
学生	0	0%
パート/アルバイト	169	27.3%
公務員	78	12.6%
自営業	18	2.9%
その他	0	0%

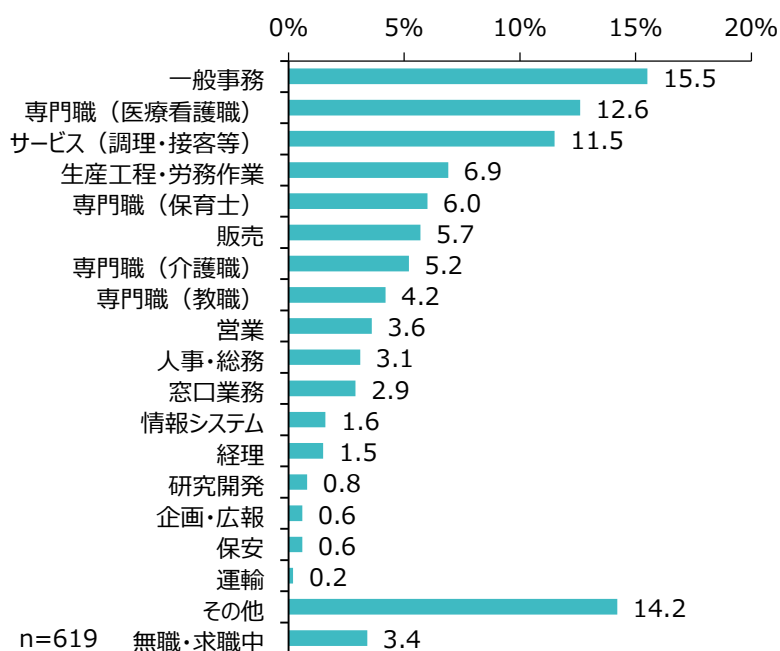
### 2.2.2.アンケート結果

問1 あなたが今就いている仕事の職種を教えてください。

※複数の業務をされている方は業務比率が最も高いものをお選びください。

今就いている仕事の職種については、「一般事務」が15.5%と最も高く、次いで「専門職（医療看護職）」が12.6%、サービス（調理・接客等）が11.5%となっている。

あなたが今就いている仕事の職種を教えてください（SA）



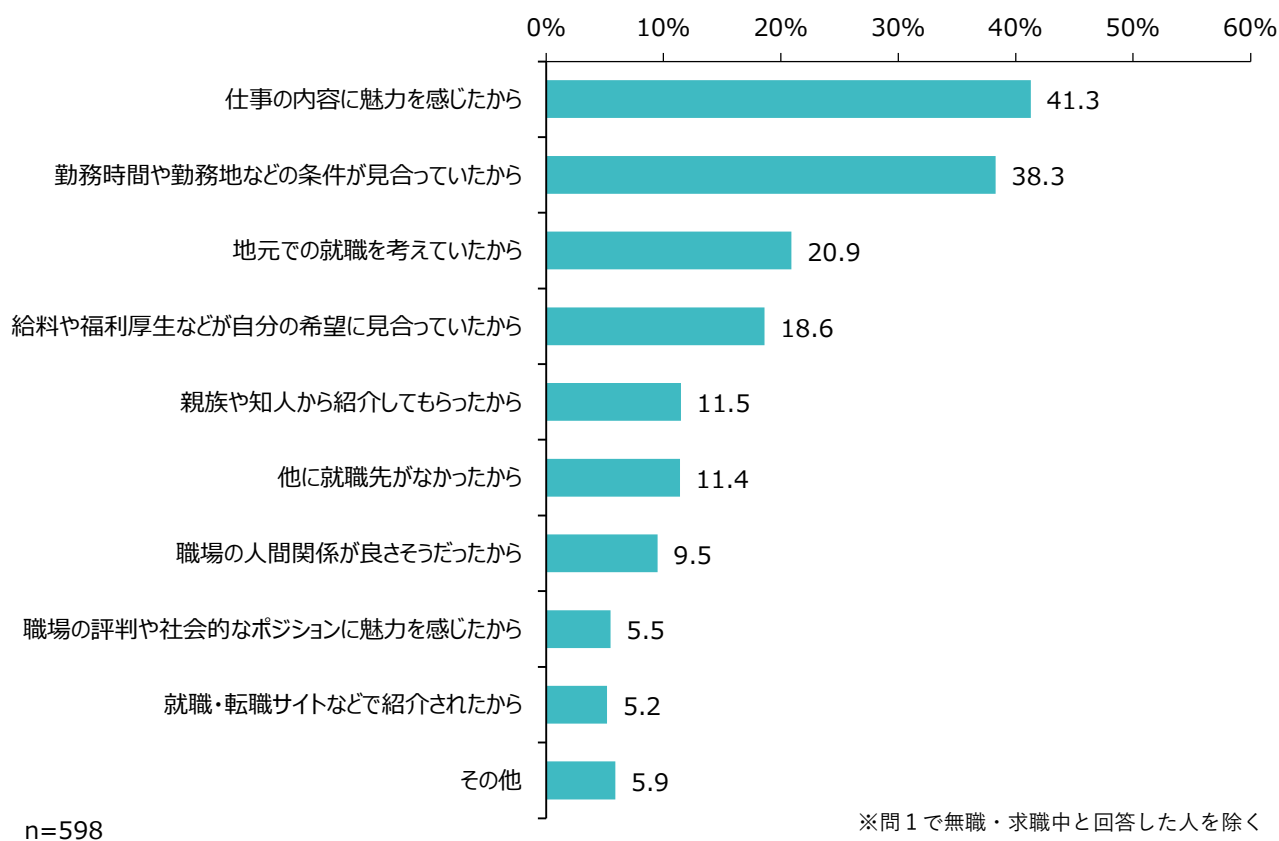
	n	%
一般事務	96	15.5%
専門職（医療看護職）	78	12.6%
サービス（調理・接客等）	71	11.5%
生産工程・労務作業	43	6.9%
専門職（保育士）	37	6.0%
販売	35	5.7%
専門職（介護職）	32	5.2%
専門職（教職）	26	4.2%
営業	22	3.6%
人事・総務	19	3.1%
窓口業務	18	2.9%
情報システム	10	1.6%
経理	9	1.5%
研究開発	5	0.8%
企画・広報	4	0.6%
保安	4	0.6%
運輸	1	0.2%
その他	88	14.2%
無職・求職中	21	3.4%

問2 あなたが今の仕事に就職した理由は何ですか。

今の仕事に就職した理由については、「仕事の内容に魅力を感じたから」が41.3%で最も高く、次いで「勤務時間や勤務地などの条件が見合っていたから」が38.3%、「地元での就職を考えていたから」が20.9%となっている。

全体の約4割が仕事の内容に魅力を感じて就職しているほか、勤務条件を理由としている回答者が多い結果となった。

あなたが今の仕事に就職した理由は何ですか（MA）



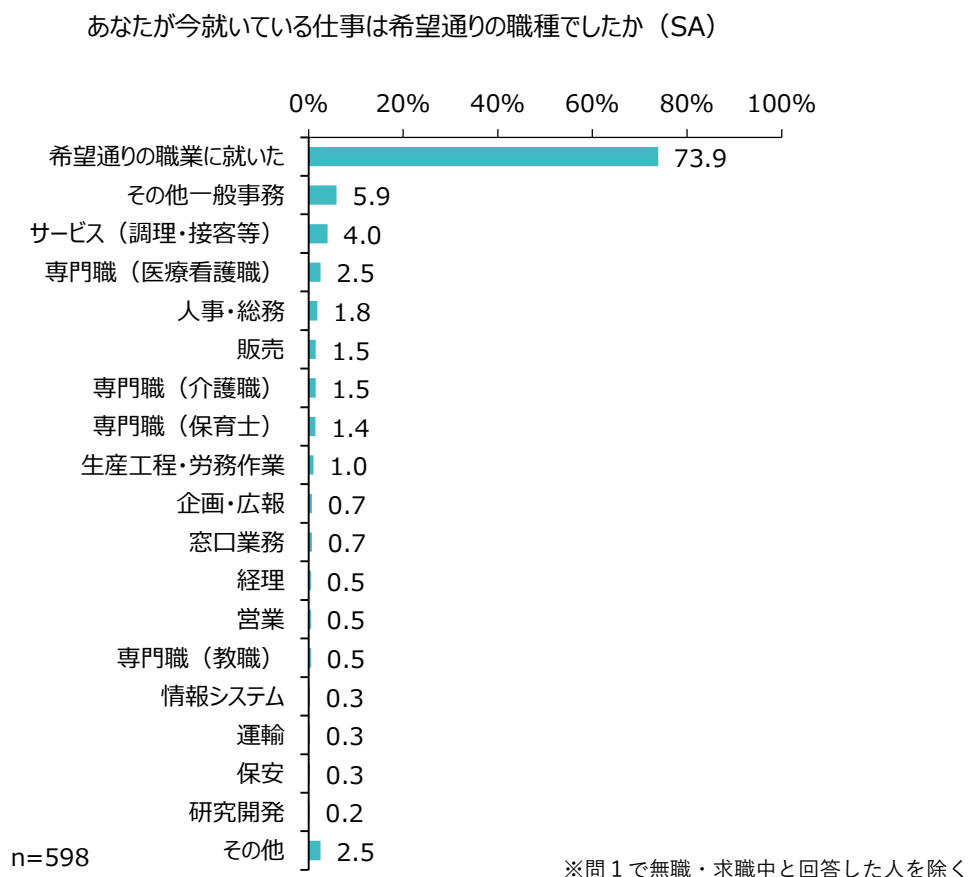
	n	%
仕事の内容に魅力を感じたから	247	41.3%
勤務時間や勤務地などの条件が見合っていたから	229	38.3%
地元での就職を考えていたから	125	20.9%
給料や福利厚生などが自分の希望に見合っていたから	111	18.6%
親族や知人から紹介してもらったから	69	11.5%
他に就職先がなかったから	68	11.4%
職場の人間関係が良さそうだったから	57	9.5%
職場の評判や社会的なポジションに魅力を感じたから	33	5.5%
就職・転職サイトなどで紹介されたから	31	5.2%
その他	35	5.9%



問3 あなたが今就いている仕事は希望通りの職種でしたか。

※希望通りではなかった場合は希望していた職種を選択してください。

今就いている仕事希望通りの職種かどうかについては、「希望通りの職業に就いた」が73.9%で最も高く、概ね今の仕事希望通りのものであることが分かった。

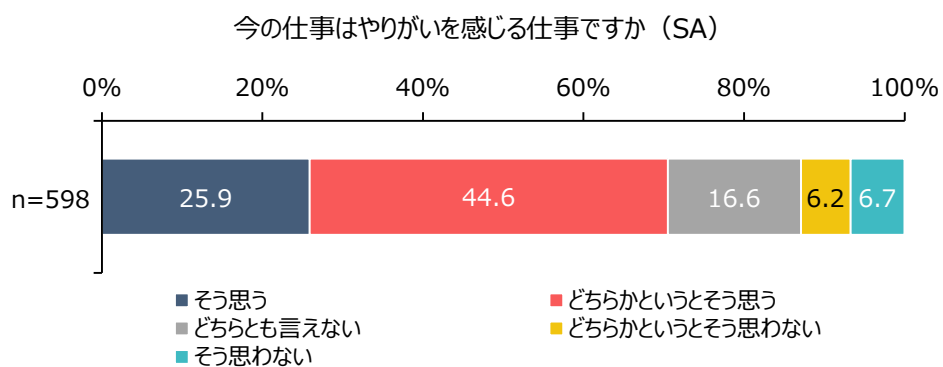


	n	%
希望通りの職業に就いた	442	73.9%
その他一般事務	35	5.9%
サービス（調理・接客等）	24	4.0%
専門職（医療看護職）	15	2.5%
人事・総務	11	1.8%
販売	9	1.5%
専門職（介護職）	9	1.5%
専門職（保育士）	8	1.4%
生産工程・労務作業	6	1.0%
企画・広報	4	0.7%
窓口業務	4	0.7%
経理	3	0.5%
営業	3	0.5%
専門職（教職）	3	0.5%
情報システム	2	0.3%
運輸	2	0.3%
保安	2	0.3%
研究開発	1	0.2%
その他	15	2.5%

問4 今の仕事はやりがいを感じる仕事ですか。

今の仕事はやりがいを感じる仕事かどうかについては、「どちらかというと思う」が44.6%で最も高く、次いで「そう思う」が25.9%、「どちらとも言えない」が16.6%となっている。

全体のうち「どちらかというと思う」と「そう思う」を合計すると、約7割の回答者が今の仕事にやりがいを感じているという結果となった。



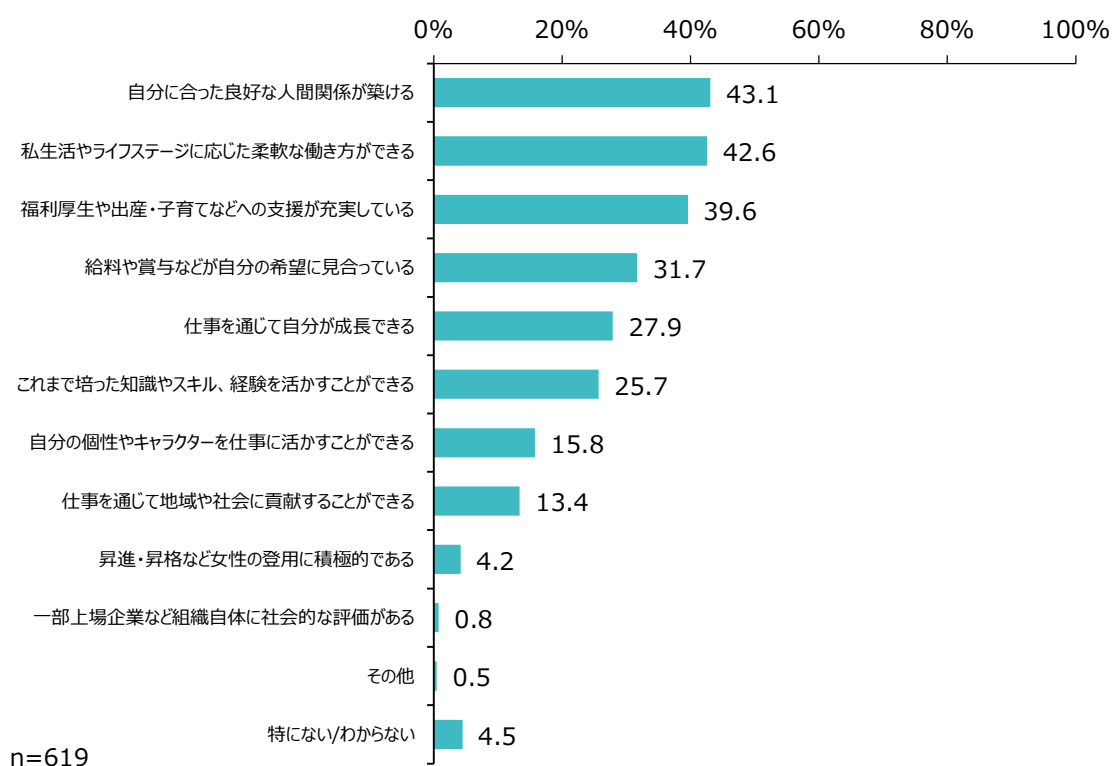
	n	%
そう思う	155	25.9%
どちらかというと思う	267	44.6%
どちらとも言えない	99	16.6%
どちらかというと思わない	37	6.2%
そう思わない	40	6.7%

問5 あなたにとって働き甲斐を感じる職場とはどのようなものですか。

働き甲斐を感じる条件かどうかについては、「自分に合った良好な人間関係が築ける」が43.1%で最も高く、次いで「私生活やライフステージに応じた柔軟な働き方ができる」が42.6%、「福利厚生や出産・子育てなどへの支援が充実している」が39.6%となっている。

これら上位の回答以外にも、給料や賞与の他、仕事を通じての成長やこれまでに培った知識や経験を活かすことができる職場が、働き甲斐を感じる職場の要素であることが分かる結果となった。

あなたにとって働き甲斐を感じる職場とはどのようなものですか (MA)

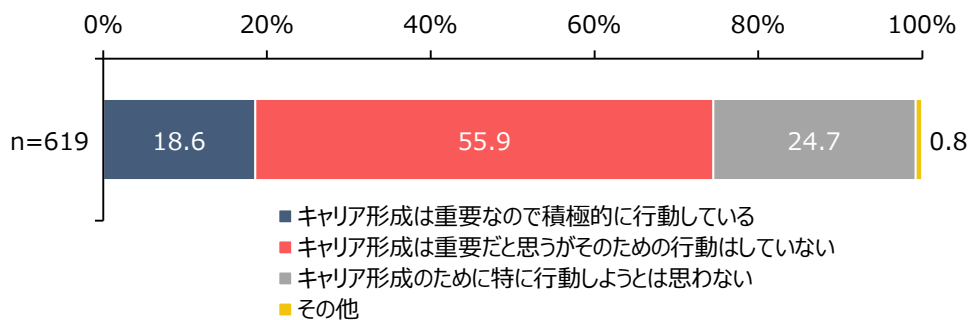


	n	%
自分に合った良好な人間関係が築ける	267	43.1%
私生活やライフステージに応じた柔軟な働き方ができる	264	42.6%
福利厚生や出産・子育てなどへの支援が充実している	245	39.6%
給料や賞与などが自分の希望に見合っている	196	31.7%
仕事を通じて自分が成長できる	173	27.9%
これまで培った知識やスキル、経験を活かすことができる	159	25.7%
自分の個性やキャラクターを仕事に活かすことができる	98	15.8%
仕事を通じて地域や社会に貢献することができる	83	13.4%
昇進・昇格など女性の登用に積極的である	26	4.2%
一部上場企業など組織自体に社会的な評価がある	5	0.8%
その他	3	0.5%
特にない/わからない	28	4.5%

問6 あなたご自身のキャリア形成に対する考え方についてあてはまるものを選んでください。

キャリア形成に対する考え方については、「キャリア形成は重要だと思うがそのための行動はしていない」が 55.9%で最も高く、次いで「キャリア形成のために特に行動しようとは思わない」が 24.7%、「キャリア形成は重要なので積極的に行動している」が 18.6%となっている。

あなたご自身のキャリア形成に対する考え方についてあてはまるものを選んでください (SA)



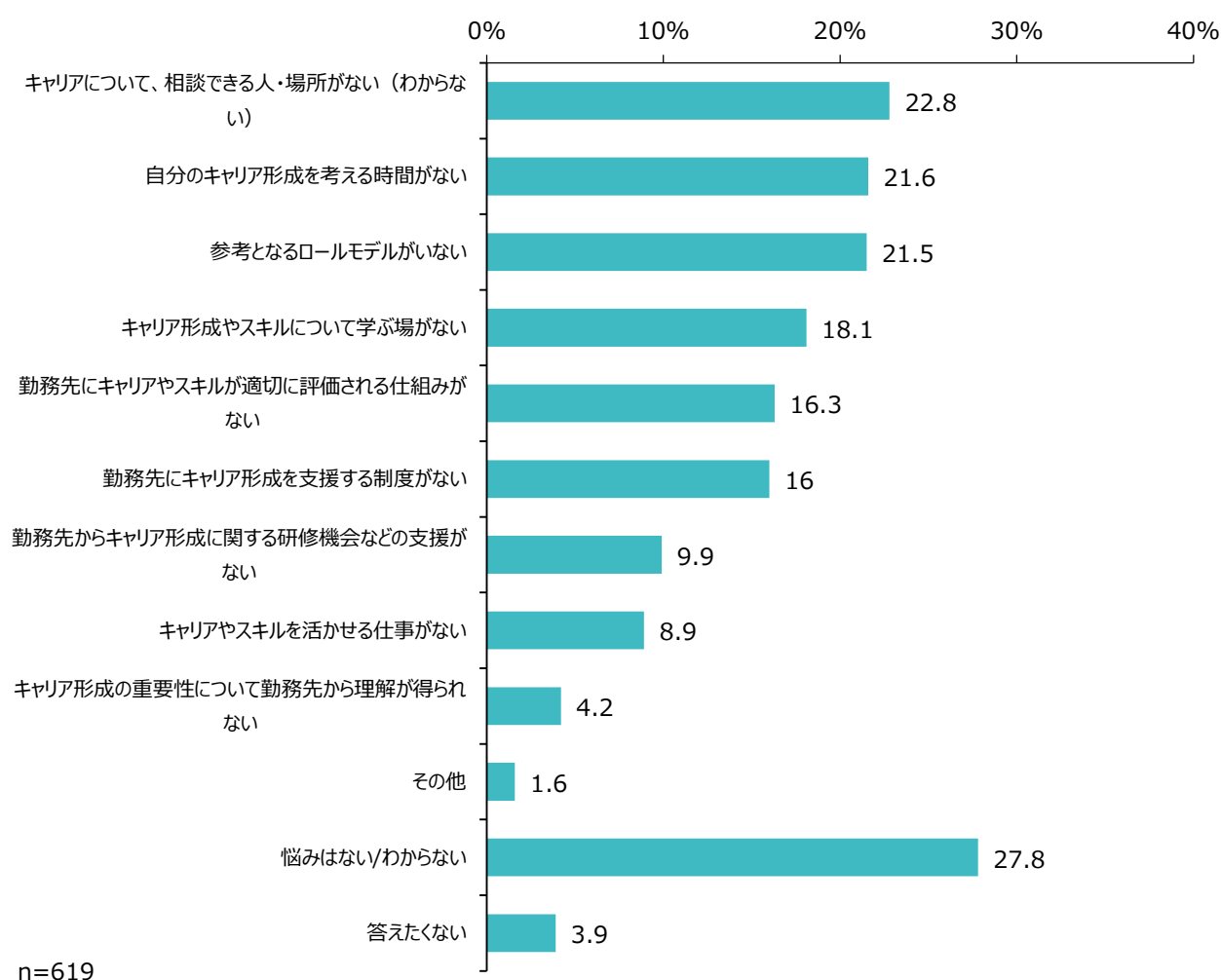
	n	%
キャリア形成は重要なので積極的に行動している	115	18.6%
キャリア形成は重要だと思うがそのための行動はしていない	346	55.9%
キャリア形成のために特に行動しようとは思わない	153	24.7%
その他	5	0.8%

問7 キャリア形成においてあなたが感じる悩みや課題はどのようなものですか。

キャリア形成において感じる悩みや課題については、「悩みはない/わからない」が27.8%で最も多くを占める中で、「キャリアについて、相談できる人・場所がない（わからない）」が22.8%、「自分のキャリア形成を考える時間がない」が21.6%、参考となるロールモデルがないが21.5%となっている。

キャリア形成についてわからない、相談できる人や場所がわからない等の回答が多く、身近なところに悩みを相談できる仕組みづくりが求められる。

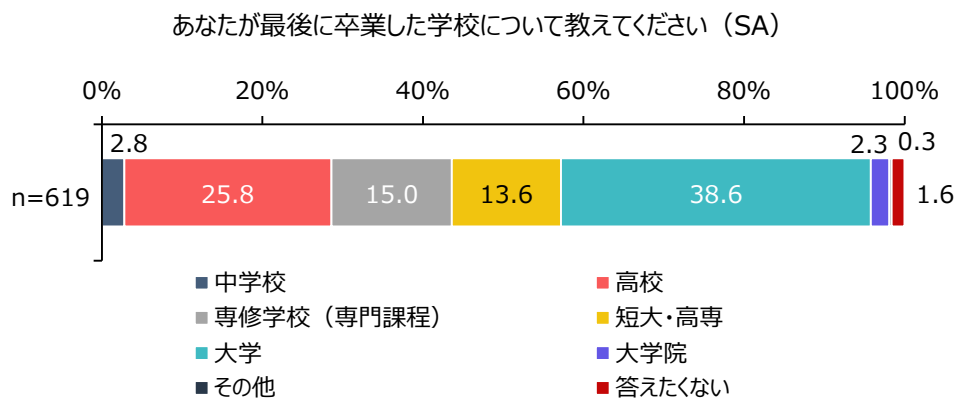
キャリア形成においてあなたが感じる悩みや課題はどのようなものですか（MA）



	n	%
キャリアについて、相談できる人・場所がない（わからない）	141	22.8%
自分のキャリア形成を考える時間がない	134	21.6%
参考となるロールモデルがない	133	21.5%
キャリア形成やスキルについて学ぶ場がない	112	18.1%
勤務先にキャリアやスキルが適切に評価される仕組みがない	101	16.3%
勤務先にキャリア形成を支援する制度がない	99	16.0%
勤務先からキャリア形成に関する研修機会などの支援がない	61	9.9%
キャリアやスキルを活かせる仕事がない	55	8.9%
キャリア形成の重要性について勤務先から理解が得られない	26	4.2%
その他	10	1.6%
悩みはない/わからない	172	27.8%
答えたくない	24	3.9%

問8 あなたが最後に卒業した学校について教えてください。

最終学歴については、「大学」が38.6%で最も高く、次いで「高校」が25.8%、「専修学校（専門課程）」が15.0%となっている。



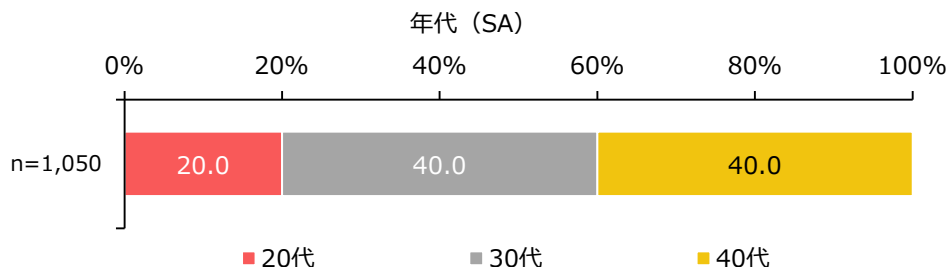
	n	%
中学校	17	2.8%
高校	160	25.8%
専修学校（専門課程）	93	15.0%
短大・高専	84	13.6%
大学	239	38.6%
大学院	14	2.3%
その他	2	0.3%
答えたくない	10	1.6%



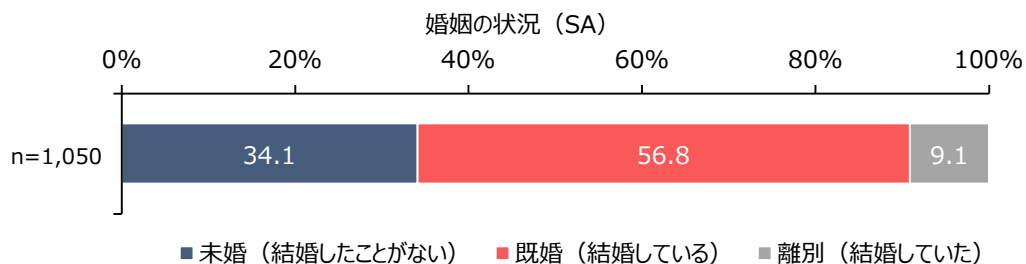
## 2.3.子育てに関するアンケート調査

### 2.3.1.回答者の属性

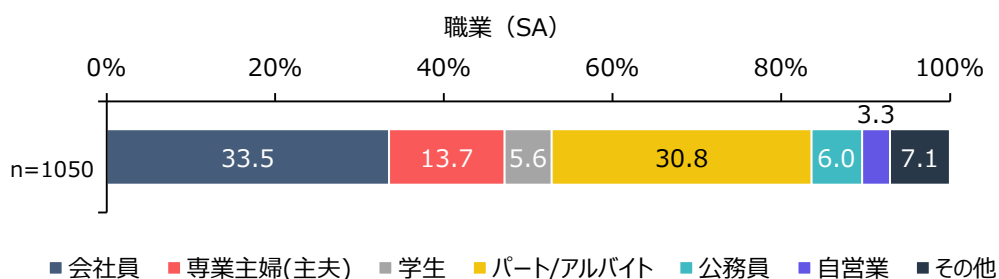
本アンケートにおける回答者の属性は以下のとおりとなっている。



	n	%
20代	210	20.0%
30代	420	40.0%
40代	420	40.0%



	n	%
未婚 (結婚したことがない)	358	34.1%
既婚 (結婚している)	596	56.8%
離別 (結婚していた)	96	9.1%



	n	%
会社員	352	33.5%
専業主婦(主夫)	144	13.7%
学生	59	5.6%
パート/アルバイト	323	30.8%
公務員	63	6.0%
自営業	35	3.3%
その他	74	7.1%

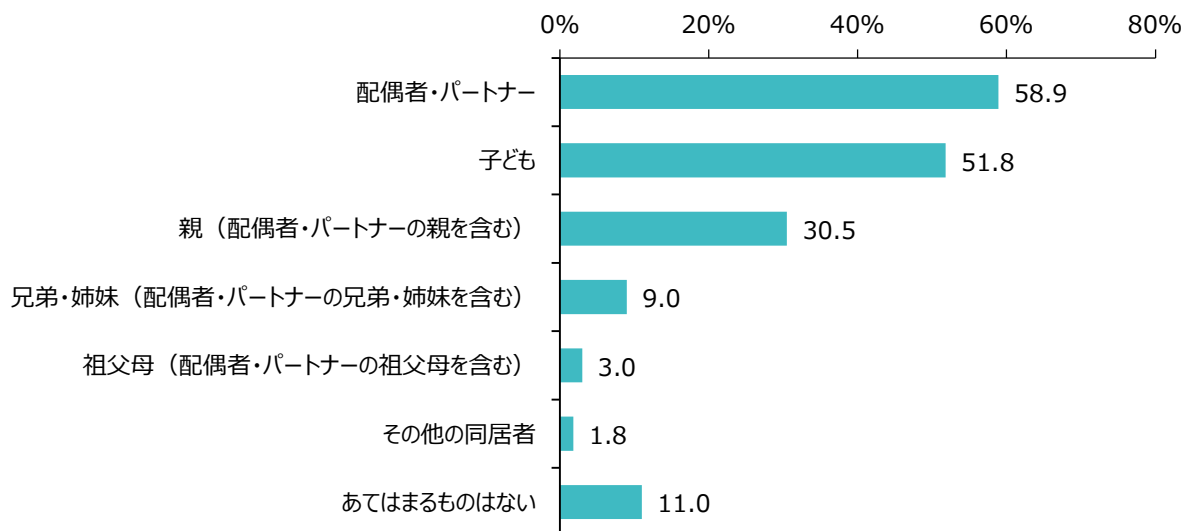
### 2.3.2.アンケート結果

問1 あなたと一緒に暮らしている人をすべて選んでください。

一緒に暮らしている人については、「配偶者・パートナー」が58.9%で最も高く、次いで「子ども」が51.8%、「親（配偶者・パートナーの親を含む）」が30.5%となっている。

回答者の半数以上が配偶者・パートナー・子どもと同居していることが分かった。

あなたが一緒に暮らしている人をすべて選んでください（MA）



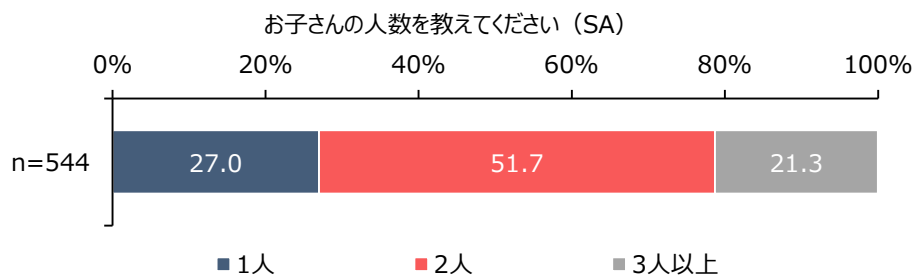
n=1,050

	n	%
配偶者・パートナー	618	58.9%
子ども	544	51.8%
親（配偶者・パートナーの親を含む）	320	30.5%
兄弟・姉妹（配偶者・パートナーの兄弟・姉妹を含む）	94	9.0%
祖父母（配偶者・パートナーの祖父母を含む）	31	3.0%
その他の同居者	19	1.8%
あてはまるものはない	115	11.0%

問2 お子さんの人数を教えてください。

子どもの人数については、「2人」が51.7%で最も高く、次いで「1人」が27.0%、「3人以上」が21.3%となっている。

同居している家族に子どもが含まれる場合の子どもの人数について、全体の約7割が2人以上の子どもがいることが分かった。



※問1で一緒に暮らしている人に子どもと回答した方

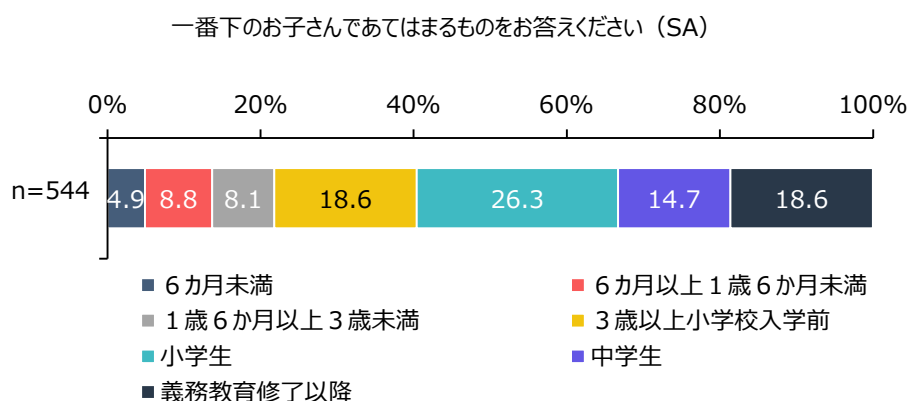
	n	%
1人	147	27.0%
2人	281	51.7%
3人以上	116	21.3%

問3 一番下のお子さんであてはまるものをお答えください

※お子さんが1人の場合は、そのお子さんにあてはまるものをお答えください。

一番下の子どもについては、「小学生」が26.3%で最も高く、次いで「3歳以上小学校入学前」と「義務教育修了以降」が同率で18.6%、「中学生」が14.7%となっている。

小学生及び中学生の割合が合わせて全体の約4割、義務教育修了以降の割合が全体の約2割となっている一方、小学校入学前の子どもの割合も合せて全体の約4割を占めていることが分かった。



※問1で一緒に暮らしている人に子どもと回答した方

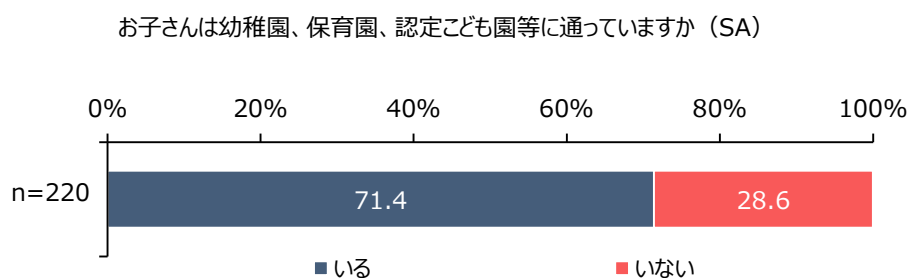
	n	%
6カ月未満	27	4.9%
6カ月以上1歳6か月未満	48	8.8%
1歳6か月以上3歳未満	44	8.1%
3歳以上小学校入学前	101	18.6%
小学生	143	26.3%
中学生	80	14.7%
義務教育修了以降	101	18.6%

問4 お子さんは幼稚園、保育園、認定こども園等に通っていますか。

※一番下のお子さんであてはまるものをお答えください。お子さんが1人の場合は、そのお子さんにあてはまるものをお答えください。

小学校入学前の子どもがいる家庭における一番下の子の幼稚園等への通園状況については、「いる」が71.4%、「いない」が28.6%となっている。

約7割が幼稚園、保育園、認定こども園等に通っていることが分かった。



※問3で一番下のお子さんが小学校入学前と回答した方

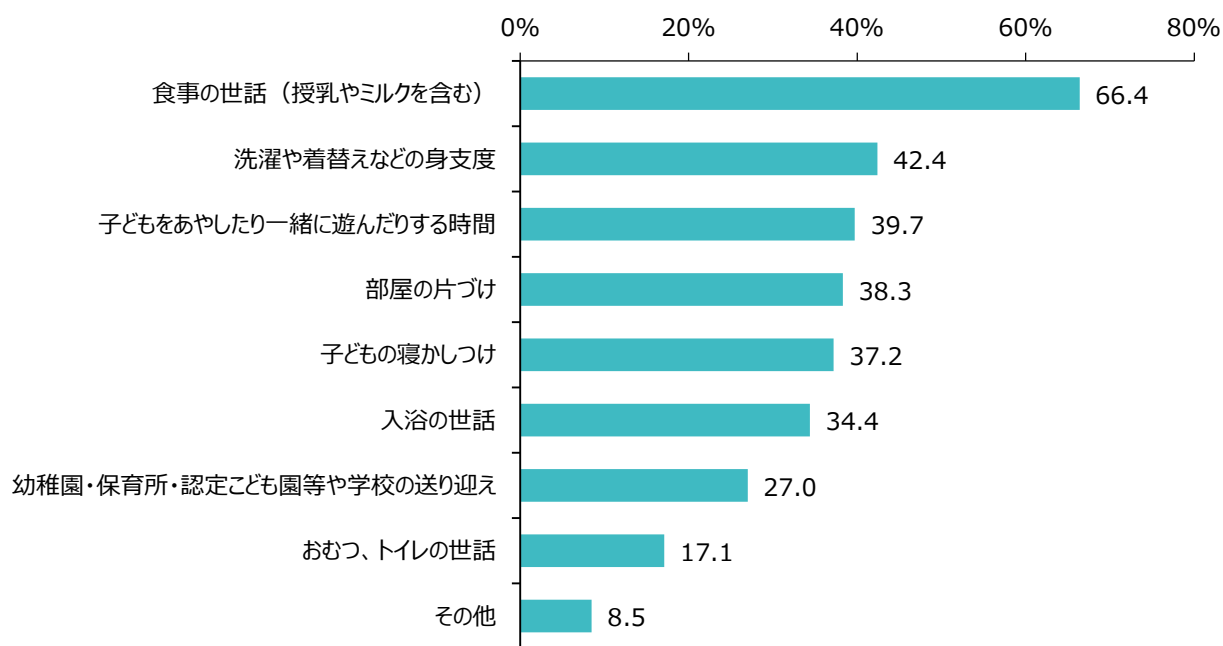
	n	%
いる	157	71.4%
いない	63	28.6%

問5 子育てのうち、決まった時間や多くの時間を割かなければならないのはどれですか。

子育てで決まった時間や多くの時間を割かなければならない内容については、「食事の世話（授乳やミルクを含む）」が 66.4%で最も高く、次いで「洗濯や着替えなどの身支度」が 42.4%、「子どもをあやしたり一緒に遊んだりする時間」が 39.7%となっている。

子育てのうち、食事の世話を圧倒的に多くの時間を割いていることを始め、洗濯や部屋の片づけ、入浴の世話などの家事全般において、いずれも比較的多くの時間を割いていることが分かった。

子育てのうち、決まった時間や多くの時間を割かなければならないのはどれですか（MA）



n=363

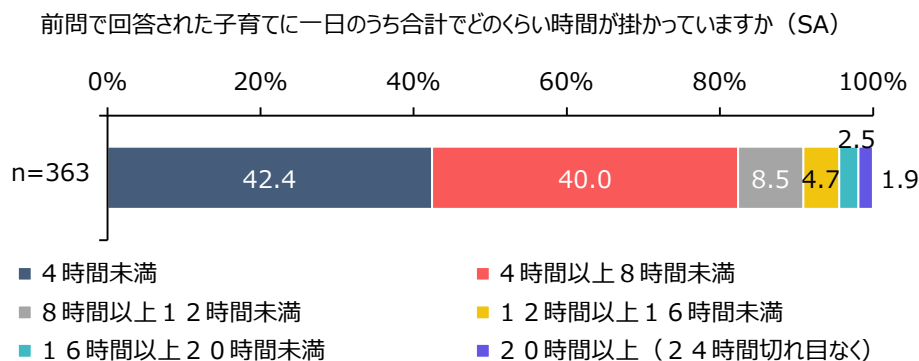
※問3で一番下のお子さんが小学校以下と回答した方

	n	%
食事の世話（授乳やミルクを含む）	241	66.4%
洗濯や着替えなどの身支度	154	42.4%
子どもをあやしたり一緒に遊んだりする時間	144	39.7%
部屋の片づけ	139	38.3%
子どもの寝かしつけ	135	37.2%
入浴の世話	125	34.4%
幼稚園・保育所・認定こども園等や学校の送り迎え	98	27.0%
おむつ、トイレの世話	62	17.1%
その他	31	8.5%

問6 前問で回答された子育てに一日のうち合計でどのくらい時間が掛かっていますか。

一日のうちで子育てに要する合計時間については、「4時間未満」が42.4%で最も高く、次いで「4時間以上8時間未満」が40.0%、「8時間以上12時間未満」が8.5%となっている。

全体のうち「4時間未満」と「4時間以上8時間未満」を合わせると約8割となることが分かった。



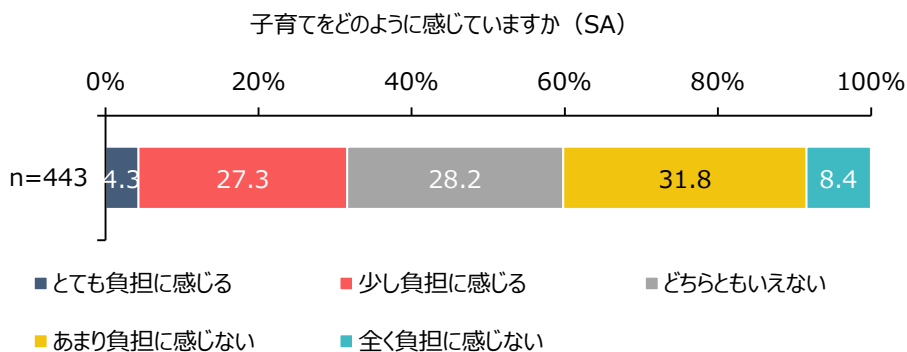
※問3で一番下のお子さんが小学校以下と回答した方

	n	%
4時間未満	154	42.4%
4時間以上8時間未満	145	40.0%
8時間以上12時間未満	31	8.5%
12時間以上16時間未満	17	4.7%
16時間以上20時間未満	9	2.5%
20時間以上 (24時間切れ目なく)	7	1.9%

問7 子育てをどのように感じていますか。

子育てに対する負担感については、「あまり負担に感じない」が31.8%で最も高く、次いで「どちらともいえない」が28.2%、「少し負担に感じる」が27.3%となっている。

全体として、「とても負担に感じる」と「少し負担に感じる」を合わせると31.6%であるのに対し、「あまり負担に感じない」と「全く負担に感じない」を合わせると40.2%と、負担に感じない割合の方が高くなっていることが分かった。



※問3で一番下のお子さんが中学生以下と回答した方

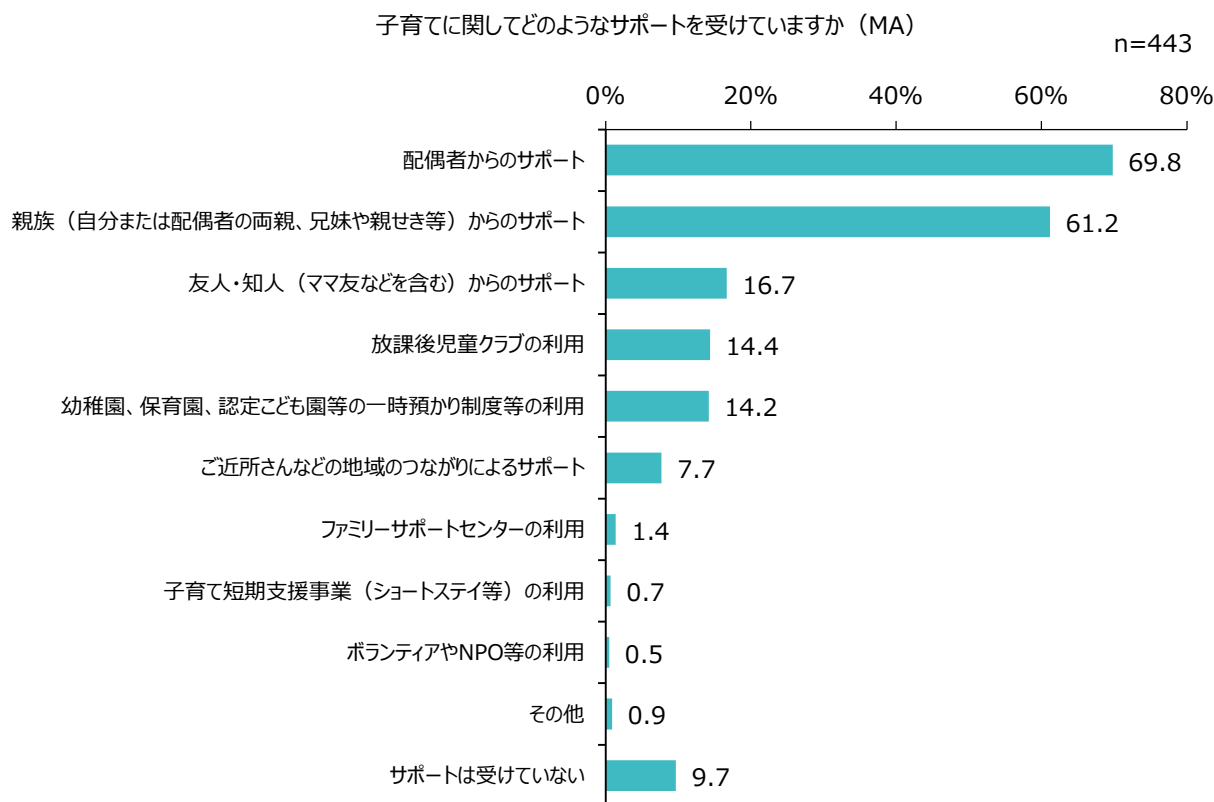
	n	%
とても負担に感じる	19	4.3%
少し負担に感じる	121	27.3%
どちらともいえない	125	28.2%
あまり負担に感じない	141	31.8%
全く負担に感じない	37	8.4%



問8 子育てに関してどのようなサポートを受けていますか。

子育てに関するサポートについては、「配偶者からのサポート」が69.8%で最も高く、次いで「親族（自分または配偶者の両親、兄妹や親せき等）からのサポート」が61.2%、「友人・知人（ママ友などを含む）からのサポート」が16.7%となっている。

回答者の6割～7割が、配偶者や親族から何らかのサポートを受けている一方、ファミリーサポートセンターや子育て短期支援事業といった公的支援の利用は比較的少ないことが分かった。



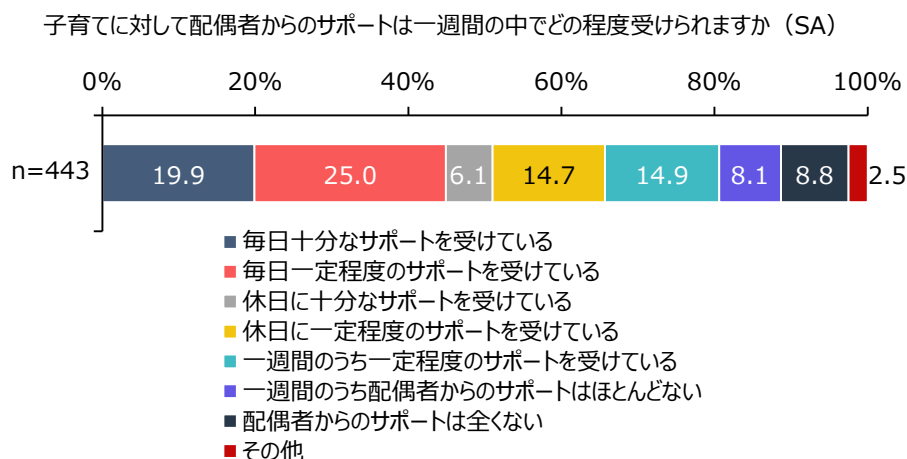
※問3で一番下のお子さんが中学生以下と回答した方

	n	%
配偶者からのサポート	309	69.8%
親族（自分または配偶者の両親、兄妹や親せき等）からのサポート	271	61.2%
友人・知人（ママ友などを含む）からのサポート	74	16.7%
放課後児童クラブの利用	64	14.4%
幼稚園、保育園、認定こども園等の一時預かり制度等の利用	63	14.2%
ご近所さんなどの地域のつながりによるサポート	34	7.7%
ファミリーサポートセンターの利用	6	1.4%
子育て短期支援事業（ショートステイ等）の利用	3	0.7%
ボランティアやNPO等の利用	2	0.5%
その他	4	0.9%
サポートは受けていない	43	9.7%

問9 子育てに対して配偶者からのサポートは一週間の中でどの程度受けられますか。

一週間の中で子育てに対する配偶者からのサポートについては、「毎日一定程度のサポートを受けている」が25.0%で最も高く、次いで「毎日十分なサポートを受けている」が19.9%、「一週間のうち一定程度のサポートを受けている」が14.9%となっている。

回答者の4割強が、一週間の中で毎日ある程度のサポートを受けていることを始め、約4割弱が休日や一週間の中で一定程度サポートを受けていることが分かった。



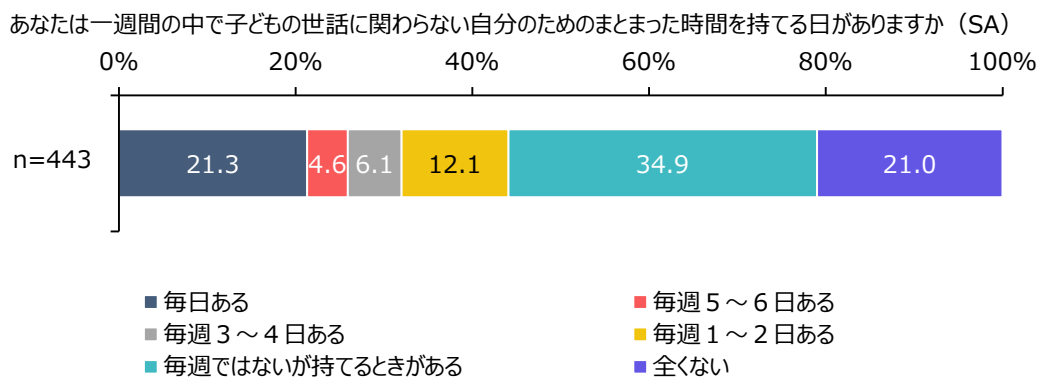
※問3で一番下のお子さんが中学生以下と回答した方

	n	%
毎日十分なサポートを受けている	88	19.9%
毎日一定程度のサポートを受けている	111	25.0%
休日に十分なサポートを受けている	27	6.1%
休日に一定程度のサポートを受けている	65	14.7%
一週間のうち一定程度のサポートを受けている	66	14.9%
一週間のうち配偶者からのサポートはほとんどない	36	8.1%
配偶者からのサポートは全くない	39	8.8%
その他	11	2.5%

問 10 あなたは一週間の中で子どもの世話に関わらない自分のためのまとまった時間を持てる日がありますか。

一週間の中での自由時間については、「毎週ではないが持てるときがある」が34.9%で最も高く、次いで「毎日ある」が21.3%、「全くない」が21.0%となっている。

回答者の3割強が、毎週ではないが自由時間を持てるときがあり、また「毎日ある」と「全くない」が約2割で拮抗していることが分かった。



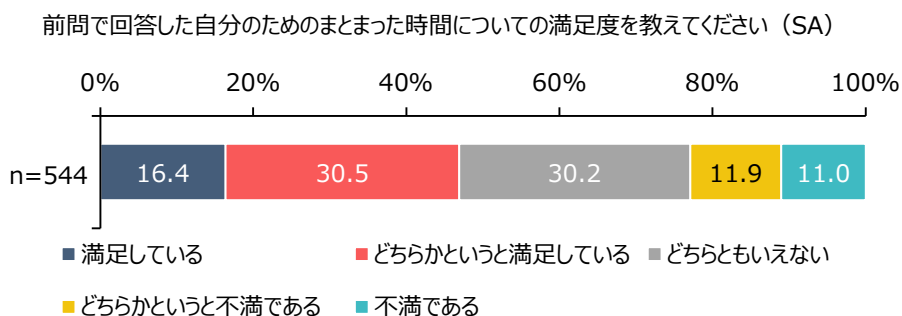
※問1で子どもがいると回答した方

	n	%
毎日ある	116	21.3%
毎週5～6日ある	25	4.6%
毎週3～4日ある	33	6.1%
毎週1～2日ある	66	12.1%
毎週ではないが持てるときがある	190	34.9%
全くない	114	21.0%

問 11 前問で回答した自分のためのまとまった時間についての満足度を教えてください。

自由時間に対する満足度については、「どちらかという満足している」が30.5%で最も高く、次いで「どちらともいえない」が30.2%、「満足している」が16.4%となっている。

全体として、「満足している」と「どちらかという満足している」を合わせると46.9%であるのに対し、「どちらかという不満である」と「不満である」を合わせると22.9%と、制約はあるものの自由時間について満足している傾向にあることが分かった。



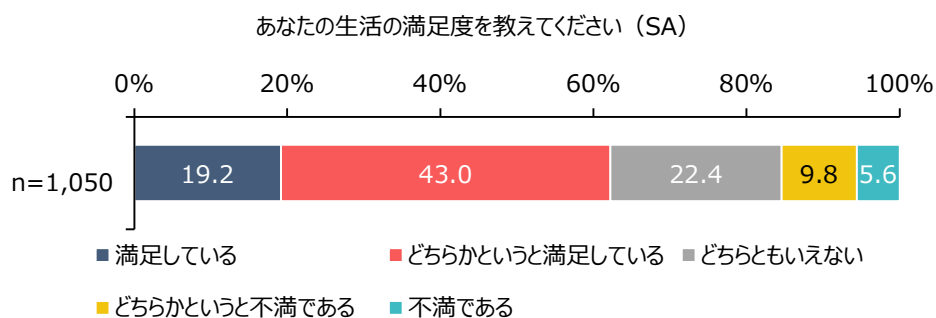
※問1で子どもがいると回答した方

	n	%
満足している	89	16.4%
どちらかという満足している	166	30.5%
どちらともいえない	164	30.2%
どちらかという不満である	65	11.9%
不満である	60	11.0%

問 12 あなたの生活の満足度を教えてください。

生活全体に対する満足度については、「どちらかという満足している」が43.0%で最も高く、次いで「どちらともいえない」が22.4%、「満足している」が19.2%となっている。

全体として、「満足している」と「どちらかという満足している」を合わせると約6割が、満足している傾向にあることが分かった。

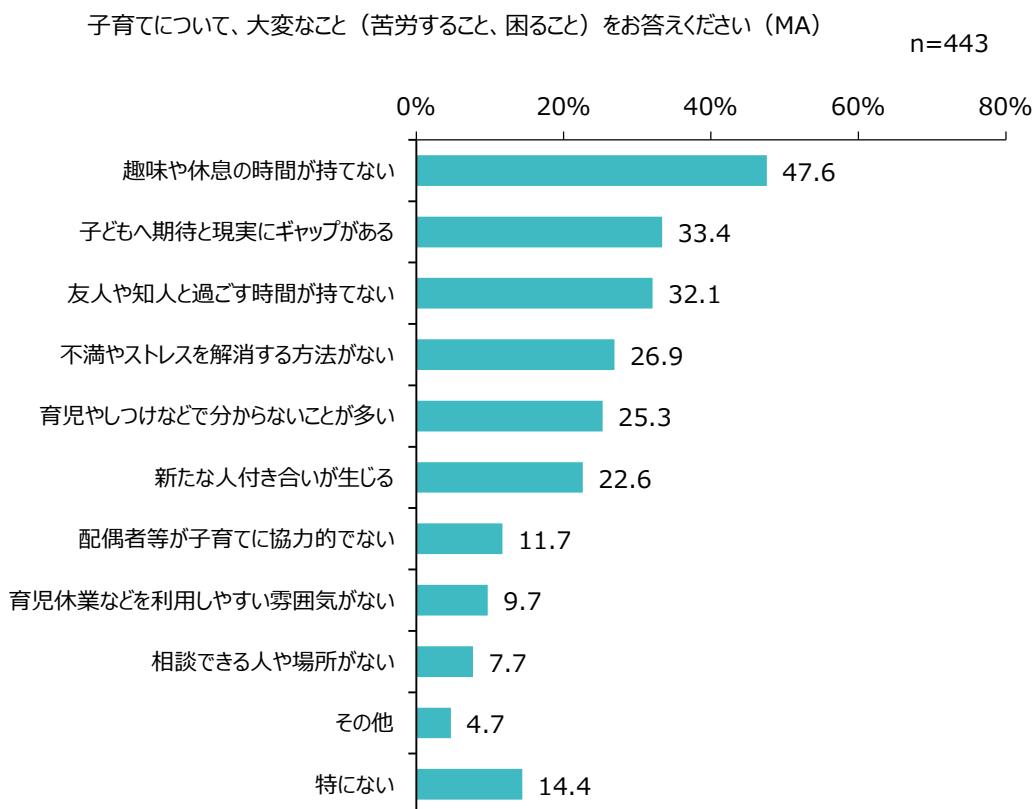


	n	%
満足している	202	19.2%
どちらかという満足している	451	43.0%
どちらともいえない	235	22.4%
どちらかという不満である	103	9.8%
不満である	59	5.6%

問 13 子育てについて、大変なこと（苦勞すること、困ること）をお答えください。

子育てにおける大変なことについては、「自分の趣味や休息の時間が持てないこと」が47.6%で最も高く、次いで「子どもに期待することと現実にギャップがあること」が33.4%、「友人や知人と過ごす時間が持てないこと」が32.1%となっている。

問 11 と重なる部分もあるが、自由時間に対する満足という視点ではなく、子育て全般において大変なことという視点で見た場合、自身の趣味や休息の時間が持てないことに苦勞していることが分かった。



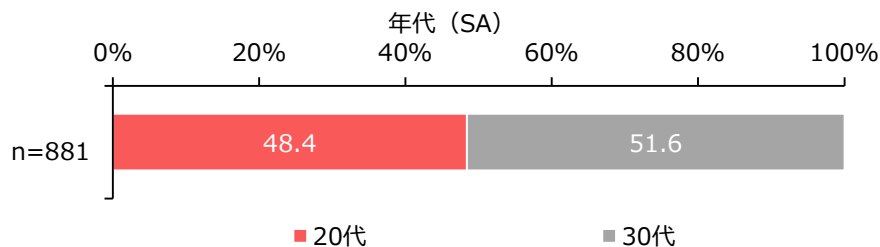
※問 3 で一番下のお子さんが中学生以下と回答した方

	n	%
自分の趣味や休息の時間が持てないこと	211	47.6%
子どもに期待することと現実にギャップがあること	148	33.4%
友人や知人と過ごす時間が持てないこと	142	32.1%
子育ての不満やストレスを解消する方法がないこと	119	26.9%
育児やしつけなどで分からないことが多いこと	112	25.3%
子育てに関連して新たな人付き合い（ママ友等）が生じること	100	22.6%
配偶者や親族が子育てに協力的でないこと	52	11.7%
職場に育児休業や看護休暇などを利用しやすい雰囲気がないこと	43	9.7%
子育てについて相談できる人や場所がないこと	34	7.7%
その他	21	4.7%
特になし	64	14.4%

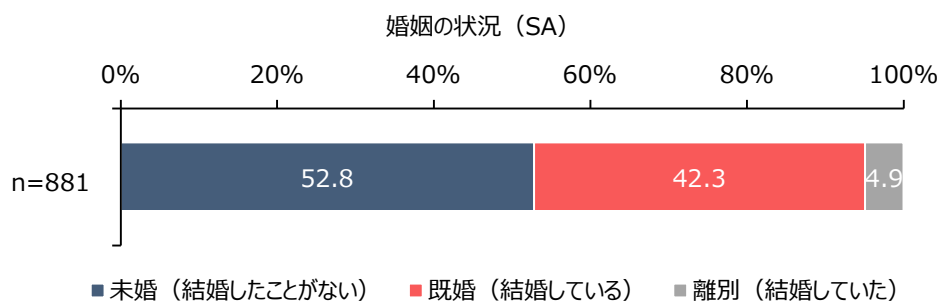
## 2.4.社会的つながりに関するアンケート調査

### 2.4.1.回答者の属性

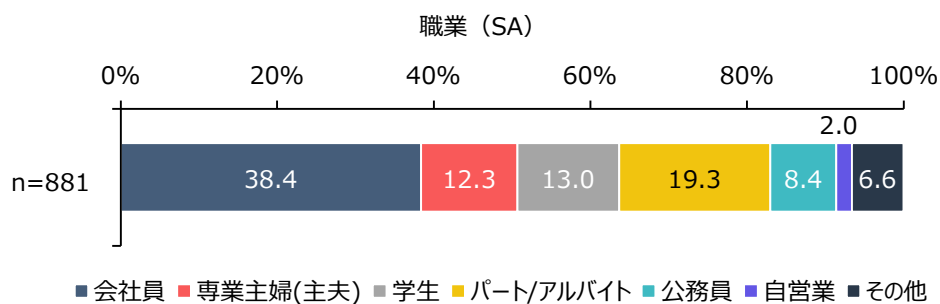
本アンケートにおける回答者の属性は以下のとおりとなっている。



	n	%
20代	426	48.4%
30代	455	51.6%



	n	%
未婚 (結婚したことがない)	465	52.8%
既婚 (結婚している)	373	42.3%
離別 (結婚していた)	43	4.9%

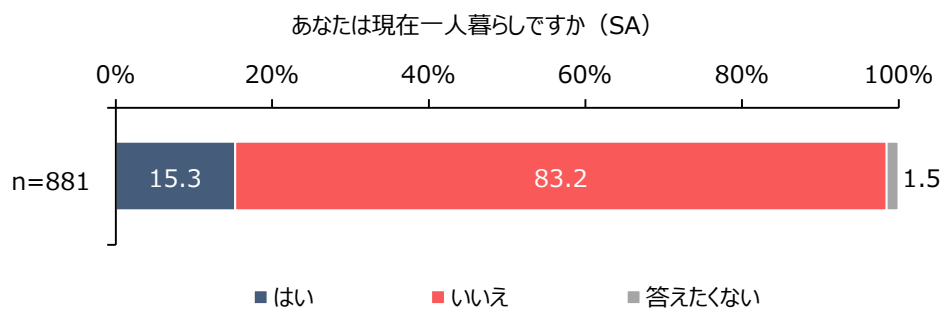


	n	%
会社員	338	38.4%
専業主婦(主夫)	108	12.3%
学生	115	13.0%
パート/アルバイト	170	19.3%
公務員	74	8.4%
自営業	18	2.0%
その他	58	6.6%

## 2.4.2.アンケート結果

問1 あなたは現在一人暮らしですか。

現在一人暮らしかどうかについては、「はい」が15.3%、「いいえ」が83.2%となっている。  
回答者の8割強が誰かと同居していることが分かった。



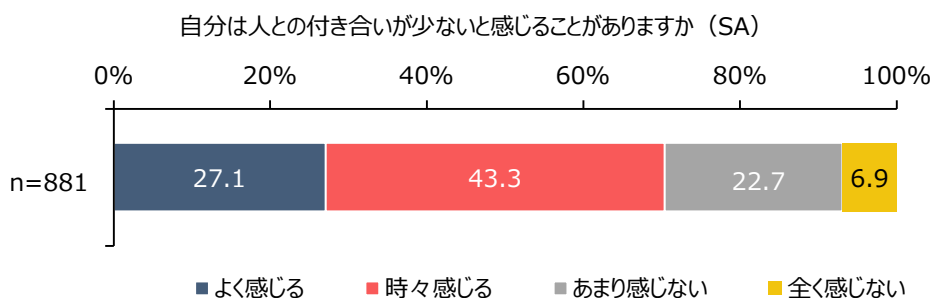
	n	%
はい	135	15.3%
いいえ	733	83.2%
答えたくない	13	1.5%



問2 自分は人との付き合いが少ないと感じることがありますか。

人との付き合いに対して少ないと感じるかどうかについては、「時々感じる」が43.3%で最も高く、次いで「よく感じる」が27.1%、「あまり感じない」が22.7%となっている。

全体として「よく感じる」と「時々感じる」を合わせると、回答者の約7割が人との付き合いに対して少ないと感じていることが分かった。



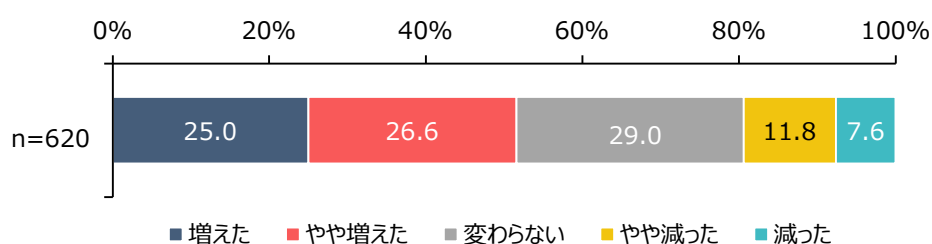
	n	%
よく感じる	239	27.1%
時々感じる	381	43.3%
あまり感じない	200	22.7%
全く感じない	61	6.9%

問 3 新型コロナウイルス感染症の流行前と比較して、現在のあなたは人との付き合いが少ないと感じることが増えましたか。

コロナ禍以前と比較して人との付き合いが少ないと感じることが増えたかどうかについては、「変わらない」が 29.0%で最も高く、次いで「やや増えた」が 26.6%、「増えた」が 25.0%となっている。

全体の比率としては「変わらない」との回答が最も高くなったが、「増えた」と「やや増えた」を合わせると、回答者の約 5 割で、コロナ禍前と比較して人との付き合いが少ないと感じる傾向にある方が多いことが分かった。

新型コロナウイルス感染症の流行前と比較して、現在のあなたは人との付き合いが少ないと感じることが増えましたか (SA)



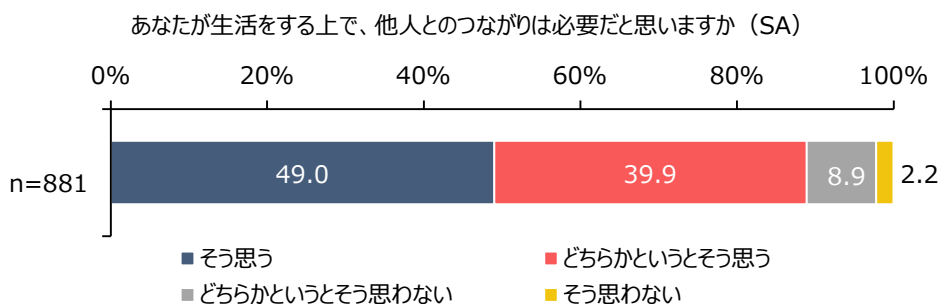
※問2でよく感じる、時々感じる と回答した方

	n	%
増えた	155	25.0%
やや増えた	165	26.6%
変わらない	180	29.0%
やや減った	73	11.8%
減った	47	7.6%

問4 あなたが生活をする上で、他人とのつながりは必要だと思いますか。

生活する上での他人とのつながりの必要性については、「そう思う」が49.0%で最も高く、次いで「どちらかというと思う」が39.9%、「どちらかというと思わない」が8.9%となっている。

全体として「そう思う」と「どちらかというと思う」を合わせると、回答者の約9割が他人とのつながりが必要だと思う傾向にあることが分かった。



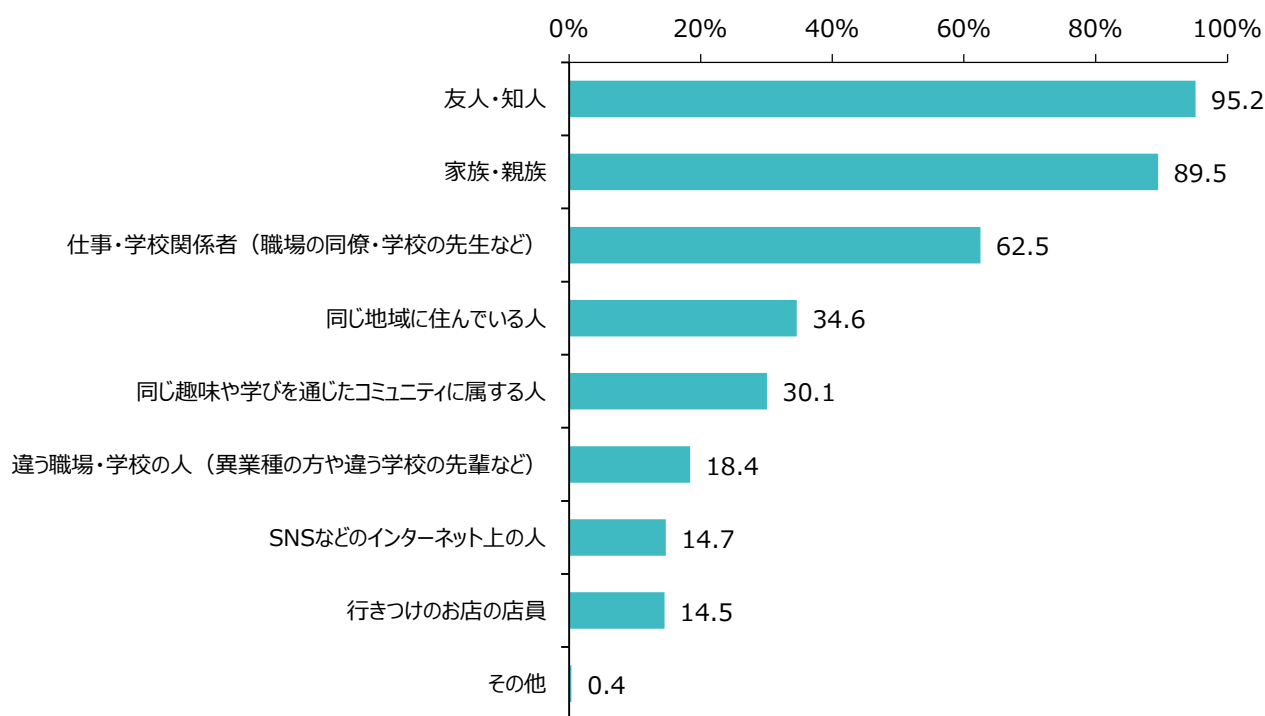
	n	%
そう思う	432	49.0%
どちらかというと思う	352	39.9%
どちらかというと思わない	78	8.9%
そう思わない	19	2.2%

問5 どのような人とのつながりが必要だと考えていますか。

つながりが必要な人については、「友人・知人」が95.2%で最も高く、次いで「家族・親族」が89.5%、「仕事・学校関係者（職場の同僚・学校の先生など）」が62.5%となっている。

全体として、日常生活の中で比較的接触の多い友人・知人や家族・親族を始め、仕事・学校関係者の割合が高いことが分かった。

どのような人とのつながりが必要だと考えていますか（MA）



n=784

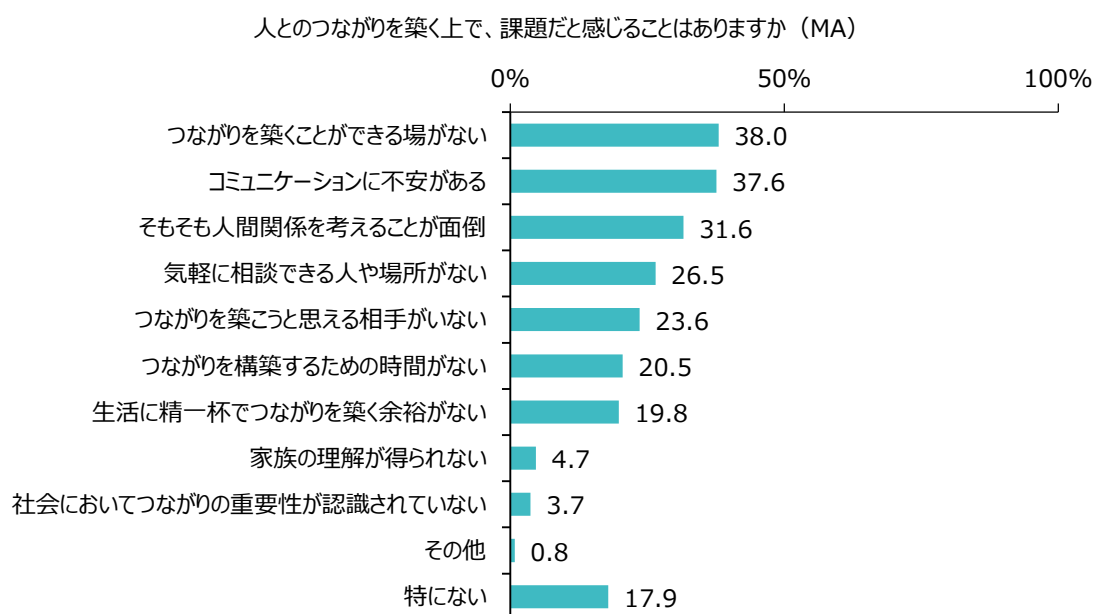
※問4でそう思う、どちらかというと思うと回答した方

	n	%
友人・知人	746	95.2%
家族・親族	702	89.5%
仕事・学校関係者（職場の同僚・学校の先生など）	490	62.5%
同じ地域に住んでいる人	271	34.6%
同じ趣味や学びを通じたコミュニティに属する人	236	30.1%
違う職場・学校の人（異業種の方や違う学校の先輩など）	144	18.4%
SNSなどのインターネット上の人	115	14.7%
行きつけのお店の店員	114	14.5%
その他	3	0.4%

問6 人とのつながりを築く上で、課題だと感じることはありますか。

人とのつながりを築く上での課題については、「つながりを築くことができる場がない」が38.0%で最も高く、次いで「コミュニケーションに不安がある」が37.6%、「そもそも人間関係を考えることが面倒」が31.6%となっている。

つながりを築くための場や相談できる場所など人とのつながりを築くうえでの場の設定が課題として挙げられる一方、コミュニケーションへの不安やそもそも考えることが面倒など、回答者側の心理的側面も課題として挙げられていることが分かった。



n=784

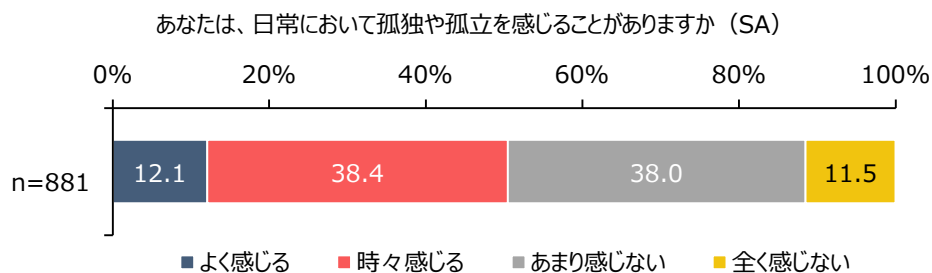
※問4でそう思う、どちらかというと思うと回答した方

	n	%
つながりを築くことができる場がない	298	38.0%
コミュニケーションに不安がある	295	37.6%
そもそも人間関係を考えることが面倒	248	31.6%
気軽に相談できる人や場所がない	208	26.5%
つながりを築こうと思える相手がない	185	23.6%
つながりを構築するための時間がない	161	20.5%
生活に精一杯でつながりを築く余裕がない	155	19.8%
家族の理解が得られない	37	4.7%
社会においてつながりの重要性が認識されていない	29	3.7%
その他	6	0.8%
特になし	140	17.9%

問7 あなたは、日常において孤独や孤立を感じることがありますか。

日常生活における孤独・孤立感については、「時々感じる」が38.4%で最も高く、次いで「あまり感じない」が38.0%、「よく感じる」が12.1%となっている。

全体として「よく感じる」と「時々感じる」を合わせると50.5%であるのに対し、「あまり感じない」と「全く感じない」を合わせると49.5%と、日常における孤独感・孤立感については拮抗していることが分かった。



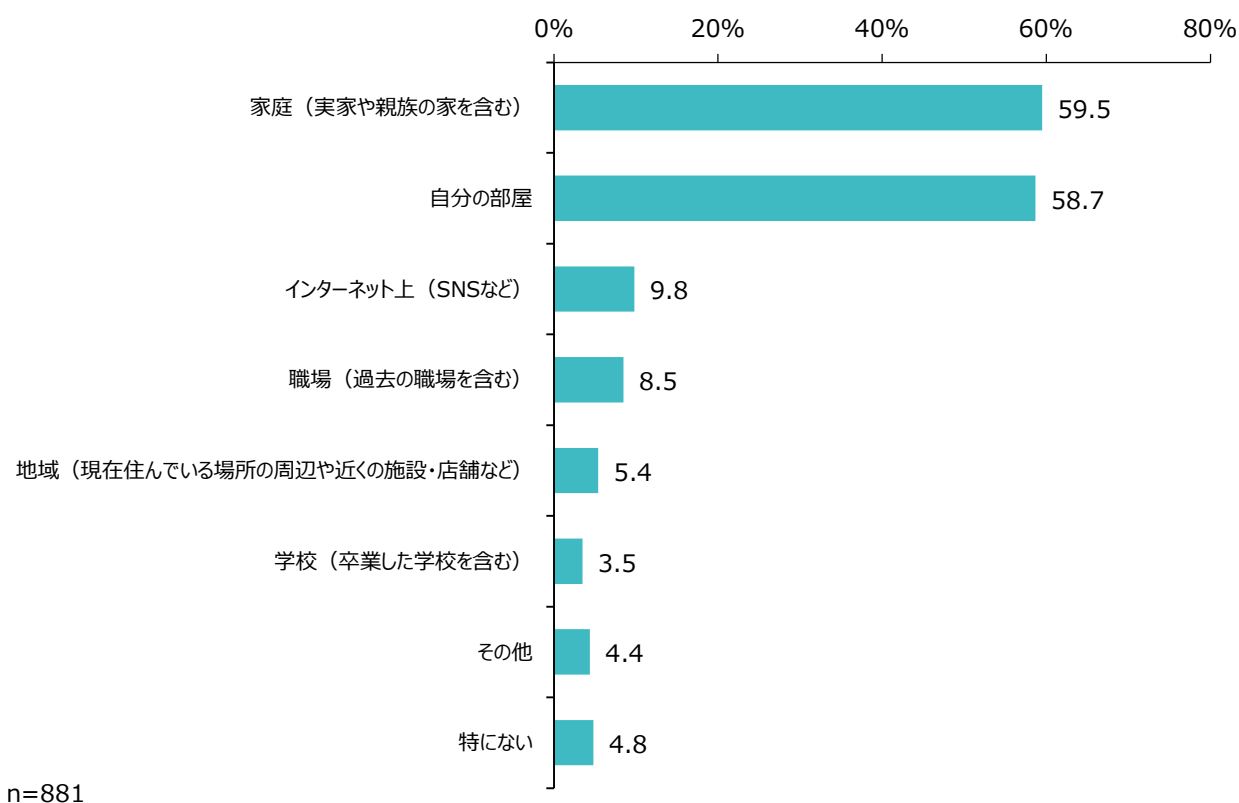
	n	%
よく感じる	107	12.1%
時々感じる	338	38.4%
あまり感じない	335	38.0%
全く感じない	101	11.5%

問8 今のあなたにとって居場所（ほっとできる場所、居心地のいい場所など）はどこですか。

ほっとできる場所（居心地のいい場所）については、「家庭（実家や親族の家を含む）」が59.5%で最も高く、次いで「自分の部屋」が58.7%と他の選択肢を大きく引き離している。

回答者の多くが日常生活の中で比較的多くの時間を過ごすであろう家庭や自分の部屋がいずれも高い割合を示す一方、インターネット上の環境や職場についても一定程度の回答が見られることが分かった。

今のあなたにとって居場所（ほっとできる場所、居心地のいい場所など）はどこですか（MA）



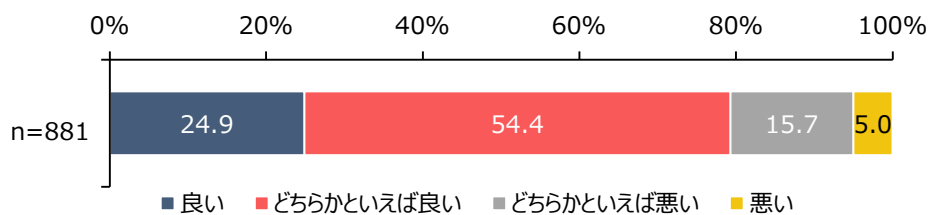
	n	%
家庭（実家や親族の家を含む）	524	59.5%
自分の部屋	517	58.7%
インターネット上（SNSなど）	86	9.8%
職場（過去の職場を含む）	75	8.5%
地域（現在住んでいる場所の周辺や近くの施設・店舗など）	48	5.4%
学校（卒業した学校を含む）	31	3.5%
その他	39	4.4%
特にない	42	4.8%

問 9 今のあなたの暮らし向き（衣食住などの生活水準）の実感として、あてはまるものをお答えください。

暮らし向きの実感については、「どちらかといえば良い」が 54.4%で最も高く、次いで「良い」が 24.9%、「どちらかといえば悪い」が 15.7%となっている。

全体として「良い」と「どちらかといえば良い」を合わせると約 8 割となり、今の暮らし向きに対する実感として良い傾向にあると感じている割合が高いことが分かった。

今のあなたの暮らし向き（衣食住などの生活水準）の実感として、あてはまるものをお答えください  
(SA)



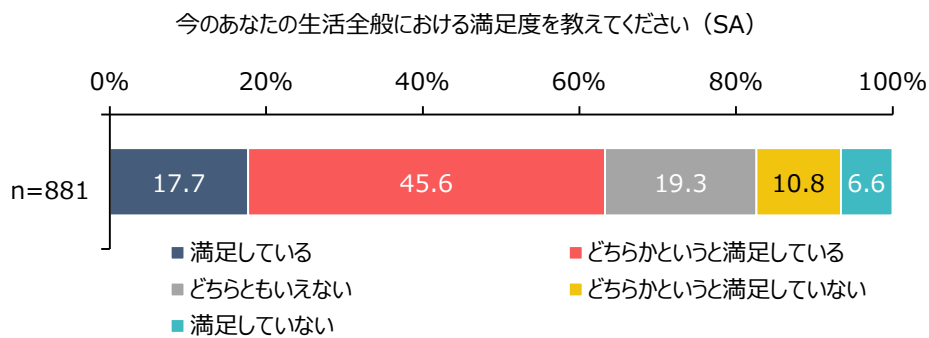
	n	%
良い	219	24.9%
どちらかといえば良い	480	54.4%
どちらかといえば悪い	138	15.7%
悪い	44	5.0%



問 10 今のあなたの生活全般における満足度を教えてください。

生活全般の満足度については、「どちらかという満足している」が45.6%で最も高く、次いで「どちらともいえない」が19.3%、「満足している」が17.7%となっている。

全体として「満足している」と「どちらかという満足している」を合わせると6割強となり、今の生活全般ついて満足の傾向にある割合が高いことが分かった。



	n	%
満足している	156	17.7%
どちらかという満足している	402	45.6%
どちらともいえない	170	19.3%
どちらかという満足していない	95	10.8%
満足していない	58	6.6%

## 2.5.クロス集計

### 2.5.1.仕事とキャリアについて

- ・キャリアが重要と思っている人が感じる働きがいがある職場の要素として、自分の成長やスキルや経験を活かせることを挙げる割合が高い。またキャリア形成のための行動しようと思わない人は働きがいがある職場の要素に、給料や環境をあげる人が多く、自分の成長や仕事の内容をあげる人は少ない。

(問5×問6クロス集計)

	キャリア形成は重要なので積極的に行動している	キャリア形成は重要だと思いがそのための行動はしていない	キャリア形成のために特に行動しようとは思わない
私生活やライフステージに応じた柔軟な働き方ができる	41.7	41.9	45.8
福利厚生や出産・子育てなどへの支援が充実している	36.5	44.2	32.7
自分に合った良好な人間関係が築ける	36.5	44.8	45.1
自分の個性やキャラクターを仕事に活かすことができる	20.0	15.9	11.1
これまで培った知識やスキル、経験を活かすことができる	34.8	27.2	15.7
仕事を通じて地域や社会に貢献することができる	22.6	11.3	9.8
仕事を通じて自分が成長できる	38.3	30.3	15.7
給料や賞与などが自分の希望に見合っている	25.2	33.5	32.0
昇進・昇格など女性の登用に積極的である	4.3	4.3	3.9
一部上場企業など組織自体に社会的な評価がある	0.8	0.3	2.0
その他	1.7	0.0	0.0
特にない/わからない	0.9	2.6	11.8

・キャリア志向があるものの行動していない人は、キャリアを学ぶ場所がない・相談できる相手がいないと答えている割合が高い。またキャリア志向がない人は、そもそも興味がなかったりわからないと答えている割合が高い。(問6×問7クロス集計)

	キャリア形成は重要なので積極的に行動している	キャリア形成は重要だと思うがそのための行動はしていない	キャリア形成のために特に行動しようとは思わない
キャリアやスキルを活かせる仕事がない	8.7	9.8	7.2
キャリア形成やスキルについて学ぶ場がない	10.4	24.9	7.8
キャリアについて、相談できる人・場所がない(わからない)	14.8	30.3	11.8
参考となるロールモデルがない	20.0	24.6	15.7
勤務先にキャリア形成を支援する制度がない	13.9	19.7	9.2
キャリア形成の重要性について勤務先から理解が得られない	7.8	4.3	1.3
勤務先にキャリアやスキルが適切に評価される仕組みがない	16.5	17.6	13.1
自分のキャリア形成を考える時間がない	13.0	26.9	16.3
勤務先からキャリア形成に関する研修機会などの支援がない	10.4	11.6	5.9
その他	1.7	2.3	0.0
悩みはない/わからない	30.4	17.3	48.4
答えたくない	1.7	4.0	5.2

## 2.5.2.子育てについて

- ・配偶者からのサポートについて、一週間のうち毎日十分なサポートを受けていると答えた人は生活に満足している（満足+どちらかという満足）と答えた割合は90.9%となった。一週間のうちほとんどない、もしくは全くないと答えた人は生活に不満である（どちらかという不満+不満）と答えた割合はそれぞれ41.6%、23.1%となった。（問9×問12クロス集計）

	満足している	どちらかという満足している	どちらともいえない	どちらかという不満である	不満である
毎日十分なサポートを受けている	47.7	43.2	8.0	1.1	0.0
毎日一定程度のサポートを受けている	15.3	53.2	23.4	8.1	0.0
休日に十分なサポートを受けている	25.9	48.1	25.9	0.0	0.0
休日に一定程度のサポートを受けている	7.7	41.5	35.4	10.8	4.6
一週間のうち一定程度のサポートを受けている	7.6	48.5	25.8	16.7	1.5
一週間のうち配偶者からのサポートはほとんどない	2.8	38.9	16.7	25.0	16.7
配偶者からのサポートは全くない	10.3	33.3	33.3	12.8	10.3
その他	18.2	36.4	18.2	9.1	18.2
合計	19.2	43.0	22.4	9.8	5.6

- ・子どもがいる親について、自分の時間が毎日持てる人はその時間に満足（満足+どちらかという満足の合計）と答えた割合が75.9%、全くないと答えた人でそのことについて不満（どちらかという不満+不満の合計）と答えた割合は59.7%だった。（問10×問11クロス集計）

	満足している	どちらかという満足している	どちらともいえない	どちらかという不満である	不満である
毎日ある	37.1	38.8	22.4	0.0	1.7
毎週5～6日ある	16.0	40.0	36.0	8.0	0.0
毎週3～4日ある	15.2	63.6	18.2	0.0	3.0
毎週1～2日ある	21.2	39.4	27.3	9.1	3.0
毎週ではないが持てる時がある	10.0	30.5	36.3	18.4	4.7
全くない	3.5	5.3	31.6	19.3	40.4
合計	16.4	30.5	30.1	11.9	11.0

・未就学児の母親のうち、自分のためのまとまった時間を持てる日について、全くないもしくは毎週ではないが持てるときがあると答えた割合が69.1%となった。(問3×問10クロス集計)

	毎日ある	毎週5～6日ある	毎週3～4日ある	毎週1～2日ある	毎週ではないが持てるときがある	全くない
未就学児	10.9	5.0	4.1	10.9	43.2	25.9
小学生	22.4	7.0	9.1	14.7	26.6	20.3
中学生	23.8	1.3	3.8	11.3	40.0	20.0
義務教育修了以降	40.6	3.0	7.9	11.9	24.8	11.9
合計	21.3	4.6	6.1	12.1	34.9	21.0

### 2.5.3.社会的つながり

- ・感染拡大の影響によって、人との付き合いが減ったと回答した人のうち、つながりを築くことができ  
る場がないと回答した人が一定数見られた。(問3×問6クロス集計)

	つながりを築くことができない	つながりを築こうと思える相手がない	そもそも人間関係を考えることが面倒	気軽に相談できる人や場所がない	コミュニケーションに不安がある	生活に精一杯でつながりを築く余裕がない	つながりを構築するための時間がない	家族の理解が得られない	社会においてつながりの重要性が認識されていない	その他	特になし
人との付き合いが減った	54.4	20.4	31.3	34.7	43.5	27.2	21.1	6.1	5.4	2.0	4.1
人との付き合いがやや減った	43.3	23.3	31.3	32.7	48.7	20.7	22.0	5.3	5.3	0.0	6.7
変わらない	37.2	32.4	47.3	28.4	46.6	20.9	19.6	2.7	0.7	0.7	8.8
人との付き合いがやや増えた	39.4	28.8	37.9	33.3	53.0	16.7	24.2	6.1	4.5	1.5	6.1
人との付き合いが増えた	45.5	40.9	47.7	43.2	38.6	36.4	38.6	9.1	4.5	2.3	9.1
合計	38.0	23.6	31.6	26.5	37.6	19.8	20.5	4.7	3.7	0.8	17.9

- ・孤独や孤立を感じている人ほど、暮らし向きの実感が低く、生活全般の満足度にも影響を与えている。  
(問7×問9、問7×問10クロス集計)

	(暮らし向きは) 良い	(暮らし向きは) どちらかといえば良い	(暮らし向きは) どちらかといえば悪い	(暮らし向きは) 悪い
(孤独や孤立を) よく感じる	16.8	41.1	24.3	17.8
(孤独や孤立を) 時々感じる	20.4	60.7	15.4	3.6
(孤独や孤立を) あまり感じない	26.6	59.7	12.8	0.9
(孤独や孤立を) 全く感じない	42.6	30.7	16.8	9.9

	満足している	どちらかという満足している	どちらともいえない	どちらかという不満である	不満である
(孤独や孤立を) よく感じる	8.4	23.4	25.2	22.4	20.6
(孤独や孤立を) 時々感じる	11.5	47.6	23.1	11.8	5.9
(孤独や孤立を) あまり感じない	21.8	53.7	15.2	7.5	1.8
(孤独や孤立を) 全く感じない	34.7	35.6	13.9	5.9	9.9

### 3.各テーマについての県内女性へのグループインタビュー

#### 3.1.仕事とキャリア①

➤ 1回目：8月31日（水）

対象者：Aさん 30代（県外大学卒・民間企業から自治体行政へ転職）

Bさん 30代（県外専門学校卒・複数企業転職後、現在介護職）

Cさん 20代（県内大学卒・リゾートホテルグループ勤務）

➤ 概要 ※報告書では個人が特定されないよう匿名性を担保する。

質問1) 自身が考えるキャリアについて教えてください。

- ・もともと都内で働いていたが、ずっと都内で働くイメージはなく、多忙を理由に転職後もシフトが合わず退職し、子育てをしながら働かなければならなくなったことをきっかけに、キャリアについてとても考えた。（Bさん）
- ・職業訓練学校に通い福祉系の資格を取得し、その資格を活かせる仕事に就いた。現在の仕事を続けていく中で、新たな資格の取得等も見据えてキャリアを形成していくことを考えている。（Bさん）
- ・子どもが生まれるまでは、現在のようなキャリア観はあまり持っておらず、自分のやりたいことを仕事にすることが優先だったが、子どもが生まれて、子どものための時間を確保したいということもあり、仕事と生活のバランスが取れることを考えるようになった。（Bさん）
- ・出産で一時期、仕事から距離を置いた期間があったが、その期間は仕事がしたくて仕方がなかった。子どもが保育所に入ることができたので、別の仕事に再就職して、働く場所のありがたさを感じた。（Aさん）
- ・転職に対しては特に抵抗感が無いので、自分のやりたいことだけでなく、自分や家族の状況に合わせて転職をしていくことが、自然だと考えている。（Aさん）
- ・キャリアについてはとても考えており、大学の学部生時代に英語を勉強していて、就職活動の際は英語を使える仕事があればと考え、現在の仕事に就いた。（Cさん）
- ・自分自身の中で家庭に入るというイメージがなかったので、家族ができて働き続けることを考えていたが、いざ働いてみると理想と現実とのギャップを感じたり、自分自身の市場価値が気になったりしている。（Cさん）
- ・現在の職場環境はとても良いと感じているが、スキルアップやキャリアチェンジを考えたときに、今のままでいいのかと悩んでいる。転職している友人も多く、転職が当たり前の時代になっているので、チャレンジや自分のキャリアの幅を広げたいと考えることもある。（Cさん）

質問 2) 仕事を選ぶ上で根底にあるキャリア観はありましたか。

- ・ こうありたいというイメージを持っていたとしても、やってみないと分からないと考えている。 海外では、トライアル期間としてお互いに対等な立場で見極める期間がある。(Aさん)
- ・ 長い目でキャリアを考えたときに、現在の仕事の勤務形態が夜勤があったり、始業と就業の時間が決まっていないこと等を考えたりすると、今後どうしようかと考えることはある。 色々なキャリアステップが踏めるようにできればと考えている。(Cさん)

質問 3) 「働く」ということに対する捉え方について

- ・ 出産の直後など仕事から遠ざかったときは辛かった。 本当に人と話せなくなってしまうという感覚があって、孤独を感じた。 仕事は、母親でも妻でもない第 3 の居場所のようなものかもしれない。(Aさん)
- ・ 子どもを産んで、コロナ禍もあってずっと子どもと一緒にいたが、とても孤独を感じた。 そうした状態が繰り返されると思うとおかしくなってしまうと思う。 自分自身が社会で評価されるということもあることから、働き続けると思う。(Bさん)
- ・ 仕事をしないという人生はイメージができない。 誰かから認められたいとか、どこかでつながってほしいという気持ちがあるのかもしれない。(Cさん)

質問 4) 山梨で働いている中で何か感じることはあるか。

- ・ 自由度が高いと感じており、地域との関わりも持ちやすいと思う。 東京ではあまりそうした雰囲気はなく、山梨では近所の人が子どもの面倒を見てくれることもある。(Bさん)
- ・ 働く上で感じることは、都内や海外と比較して、山梨はまだまだ男性中心社会だと感じる。 「女性だから」という固定概念が強く、「女性目線で」と言われることや、古い価値観に当てはめられること、また、ロールモデルを探したり、ロールモデルとなることを求められることもとても嫌だった。(Aさん)

質問 5) 働いている中で、今後山梨がどうなったらいいと思うか。

- ・ 働く場所や人の多様性、働き方などの面で選択肢が増えるといいと思う。 色々な選択肢があると色々な人が働きやすくなると思う。 例えば、時差出勤やリモートワークなどの制度的な部分はもちろん、副業や働きながらのボランティア活動など、色々なことができるようになると良いと思う。(Aさん)
- ・ 新しいことが始めにくいと感じるので、面白いことを思いついた人がもっと気軽に始められるようになると良いと思う。(Bさん)
- ・ 求人が少ないと感じる。 見せ方の問題もあるかと思うが、求人はあっても、若い世代に響かない、魅力的に映らない。 フレックスタイムやリモートワーク等を始められていない印象があり、



その辺が変わると働きたい人や山梨に戻ってきたいと考えている人のニーズにも応えられるのではないかと思う。(Cさん)

質問 6) 山梨で仕事を探したときに感じたことについて

- ・ 求人情報を見たときに、同じような仕事しかないと感じた。若者目線で見るともっと厳しいのかなと思う。(Bさん)
- ・ 情報発信という点では弱いと思うので、そこを頑張った方が良いのではないかと思う。(Aさん)

### 3.2.仕事とキャリア②

➤ 2回目：9月3日（土）

対象者：Dさん 20代（県外大学卒・県内製造業総務事務）

Eさん 20代（県外大学卒・県内自動車ディーラー社長秘書業務）

➤ 概要 ※報告書では個人が特定されないよう匿名性を担保する。

質問1) 自身が考えるキャリアについて教えてください。

- ・ 上司からは、経験を積んでいって、キャリア形成について自分の中で想像すると言われるが、自分の中ではまだ仕事を始めたばかりなので、プラスアルファまでは意識がいかない。（Dさん）
- ・ キャリアと言われると、仕事上の経験や経歴が思い浮かぶ。それまでに取得した知識や経験もキャリアに含まれると考えている。秘書業務も私生活で活かせる部分がある。仕事のことも私生活のことも併せてキャリアと言えるのではないかと思う。（Eさん）

質問2) 仕事をする上でキャリアを重視しているか。

- ・ 基本的に攻めの姿勢で臨まないとスキルは身に付けられないと考えている。比較的大きな企業であるので、自分から身に付けにいかないと機会が得られない。キャリア形成のためには、必ずしもスキルに限らず、視点も大事となると考える。例えば、若い世代からの視点のようなもの。（Dさん）
- ・ 他の部署の業務を知りたいという思いから、手伝ってみようという意識もある一方で、それは自分の仕事の範囲外とみなされやすい。自分も30代を迎えようとする中で、視野を広げるためにも他の部署の業務を知りたい、関わってみたいと思った。（Eさん）

質問3) あなたがイメージするキャリアは今の仕事で実現できそうか。

- ・ 今担当している業務はお客様と会社とをつなぐ業務で、色々な経験ができ、環境面でもキャリアを積むことができると現時点では考えているが、エリア職として県内での業務が中心であるため、県に根付いた仕事としてどこまでキャリアを形成していけるのかが不透明なところもある。（Dさん）
- ・ 今の会社ではできそうで難しいと感じている。秘書業務は特殊なところもあり、自身の代わりになる後任の候補が出てこず、今のポジションを離れることが難しい。今のポジションではキャリアを形成していくには限界がある。（Eさん）

質問4) 今の仕事に就いた理由やきっかけを教えてください。

- ・ 就職活動をしていた時に正直やりたい仕事はなかった、自分の中で一つの条件があって、大学

で英語系の勉強をしていたため、それを活かせる仕事として、都内のやまなし暮らし支援センターに行き相談する中で決めた。(Dさん)

- ・ 大学進学で都内に出たが、その際、両親からの条件として、就職は県内ということとなっていた。自身も大学4年間で都内に馴染めないところもあり、県内での就職を考えていた。山梨労働局のヤングハローワークに相談に行き、そこで現在の職場の紹介を受けた。(Eさん)

質問5) 一度大学進学で県外に出たが、県内で就職しようと考えた一番の要因は何か。

- ・ 仕事というよりも過ごしやすさが一番重要であったと思う。生まれ故郷が一番安心と思った。都内でも比較的自然が多い地域で暮らしていたが、それでも東京という場所に上手く馴染むことができず、ストレスがなく自由に過ごせる山梨での就職を考えて。(Eさん)
- ・ 県内に戻ってくると自分のペースで自分のやりたいことができ、都内に出たいと思ったら直ぐに行ける距離でもあるし、山梨は利便性もあるし、せっかく実家も県内にあるため、ここで良いかなと考えた。(Dさん)

質問6) 山梨で仕事をしていて(働いていて)、何か感じることはあるか。

- ・ ワークライフバランスの観点から、余暇の面が足りていないように感じる。そこが他の自治体と違うように感じる。仕事につながる余暇が少ない点は気になる。皆が同じ場所に行く印象が強く、週末の買い物でも同じ景色の中で生活している感が強い。(Dさん)
- ・ 若い女性の世代は新しいものが好きであり、そうした場所があることにより、仕事のモチベーションにもつながる。飲食店や遊ぶ場所、イベント開催などの新しい場所があると良い。週末は仕事のことを考えないようにしているが、どうしても考えてしまう場合にはそうした場所があると嬉しい。(Dさん)
- ・ 仕事柄、社長に会いに来る方も県内の方が多く、その多くが男性である。もっと女性が活躍できる場の設定、例えば女性の管理職がいてもいいのではないかと感じている。(Eさん)

質問7) 今後、山梨で仕事をする(働く)上で、希望することはあるか。

- ・ 会社自体があまり山梨に根付いた会社でなく、世界を相手に仕事をしている中で、自分が山梨に帰ってきたからには、山梨に何かしらの貢献をしたい、他の企業と山梨を盛り上げていけるような取組があったら良いと感じている。(Dさん)
- ・ 女性の活躍という面で、今の会社の事情しか分からないが、中々後継者の育成ができていないように感じる。女性ならではの視点や女性の声を聴ける雰囲気を作っていくことが大切で、自身の将来設計として管理職になっていきたいと考えている。会社の中で女性活躍が口先だけで実際に取り組めていない。「山梨えるみん」認定制度など、山梨県が推進している活動や制度をもっと周知してもらいたい。(Eさん)

### 3.3.子育て①

➤ 1回目：8月28日（日）

対象者：Aさん 30代（2児の母・個人事業主）

Bさん 30代（1児の母・看護師・勤務先託児所利用）

Cさん 30代（1児の母・放射線技師・育休中）

➤ 概要 ※報告書では個人が特定されないよう匿名性を担保する。

質問1) 子育ては大変か。どこが大変か。

- ・ 想定していた大変さと、実際の大変さとは違っていた。子育てと家事とを同時進行で進めることが大変。子どもが動くようになり活動量が上がってくると、特に夜起きてしまうのが大変。子どもが生まれる前は、夫婦2人いれば何とかかなと考えていた面がある。（Bさん）
- ・ 同時進行は確かに大変。子どもを2人みているが、実母に手伝ってもらっている。本当に1人で見ている人よりは負担が少ないと思う。夕飯とか特に夕方の時間、家事をしながらの子育ては大変。（Aさん）
- ・ 夕方家事をしながら子どもの面倒を見るのが大変。夕方になると子どもがぐずり始める。（Cさん）

質問2) 日々の自由時間はどのくらいあるか。

- ・ 自分がお風呂の時間が好きなため、子どもの入浴時間と大人の入浴時間とを別にするようにした。21時には寝てくれるため、その後の時間は比較的自由な時間となる。（Bさん）
- ・ 子どもが朝7時に起きるため、5時に起きている。その2時間が唯一の自由時間。朝の時間が確保できてからは精神衛生上とても改善した。（Aさん）
- ・ 子どもが21時には寝るが、そこから家事をしなければならぬため、自由時間が上手くつくれない。（Cさん）

質問3) 自由時間はどうやったら作れそうか。または長くできそうか。

- ・ カフェとか行きたいときには、休日に事前に夫に相談し、時間を確保した上で行っていた。それでも半年に1回程度で、逆に夫が自由時間を必要とする場合には対応する。（Bさん）
- ・ 子ども同伴可の美容院に通っている。友達と出かけたい場合など、夫の協力もあったが、一時預かりを利用していたこともある。（Aさん）
- ・ お母さんの姿が見えなくなると泣いてしまうため、利用を躊躇してしまう。子どもに夜寝てもらうために日中活動させている状態。（Cさん）

質問 4) 夫や両親のサポートはどのくらいあるか。また夫のサポートに望むことはどんなことか。

- ・ 夕方が大変なのは共通認識だが、その時間帯だけでも帰宅して夫の支援があると助かる。夫が職場をいったん離れ、帰宅し、夕方の時間に子どもをお風呂に入れ、その後職場に戻り、残業している状況である。(Bさん)
- ・ 夕飯とお風呂の時間に帰宅してもらえるのが一番助かる。一日の育休は不要。(Aさん)
- ・ 夕方 18 時過ぎでも帰ってきてくれると助かる。(Cさん)

質問 5) 外部のサポートは使っているか。使っている場合何を使っているか。

- ・ 夫の実家暮らしということもあるが、甲府市の「おしろらんど」や職場の託児室を利用している。託児室は仕事が終わるまで預かってくれるため、融通が利く上、利用料も比較的安い。(Bさん)
- ・ 保育園と一時預かり、子育て支援センターも使っていた。甲府市の「おしろらんど」も利用した。笛吹市にある県の「健康科学大学産前産後ケアセンター（ママの里）」にも行ったが、そこに行くと「疲れたお母さん」というイメージが付いてしまうように感じる。職員もそんな感じで接してくるように感じてしまう。(Aさん)

質問 6) ファミリー・サポート・センターなど公的支援は何か使っているか。

- ・ 知らない人に預けるとするのは若干抵抗がある。ベビーシッターのような制度自体に対して、日本では「子どもは親が見るもの」という先入観があり、中々利用が進まないように思う。(Bさん)
- ・ 知名度がもっと上がれば利用に対する目線も変わるように思われる。子育ての勉強をしに行く所のような印象もあった。4 カ月だと母親自身の体力もないと中々大変と感じる。(Bさん)
- ・ 制度自体を知らなかった。最初、一時預かりを利用する際に、子どもが小さい中での利用に躊躇があった。自分以外の人間が自分の子どもに優しく接してくれる様子を見て、それからは利用しやすくなった。(Aさん)
- ・ 一時預かりの利用をまず考えてしまう。支援センターの利用について、現在はコロナの対応で 3 人までの利用となっており、保育士さんがとても親身に接してくれる。子どもが小さい時から知っていてくれると利用のハードルが下がる。(Cさん)

質問 7) 子育て支援情報はどうやって入手するか。

- ・ 市の広報は、最初は全然見ていなかったが、近所にいる年齢の近い子どもがいるお母さんから教えてもらって見始めた。NPO 法人子育て支援センターが発行している山梨子育て応援誌「ちびっこぶれす」も見ている。(Cさん)
- ・ イベントに出ることや支援センターの利用はしていなかったが、インスタグラムで他のママさ

んが子育て情報を掲載しており、それを入手していた。自分たちの母親世代の情報では古く、先輩ママさんからの情報が一番有難い。（Bさん）

- ・「ちびっこぶれす」は読んでいる。子育てのコツなど読み物として読んでいる。自分もインスタグラムをよく見ている、例えば離乳食の作り方など、子育て系のインフルエンサーのアカウントをよく見ている。（Aさん）

#### 質問 8) 全体を通して

- ・友人の夫がてきぱき動いていて、それを自分の夫が見て更にてきぱき動くようになった気がする。夫側の準備についても、モデルケースのようなものがあれば良いのではないかと思う。（Bさん）
- ・出産する前にイメージできた方が良いかもしれない。里帰り出産をしてしまうと、夫側が学ぶ機会が少なく、そういうケースの場合、その後の生活において、夫側があまり支援できない様子が窺がえる。（Aさん）
- ・出産直後は、夫が在宅勤務で 1 カ月半を一緒に支援してくれた。育児の大変さが共有できただけでも良かった。コロナ禍でママ友同士で話ができる機会も減ってきている。（Cさん）

### 3.4.子育て②

➤ 2回目：9月21日（水）

対象者：Dさん 40代（シングルマザー・パートタイム勤務）

Eさん 30代（シングルマザー・自治体行政会計年度任用職員）

➤ 概要 ※報告書では個人が特定されないよう匿名性を担保する。

質問1) 子育ては大変か。どこが大変か。

- ・ 大変に決まっている。21時前になっても家事等で落ち着かない。落ち着くのは22時過ぎぐらい。日中は仕事もしなければいけないし、子どもの行事もあり、母子家庭のため、自分が稼ぎ頭にならないといけない。仕事を休んではいけないと考えるため、自分が風邪を引いてはいけないと感じることがある。(Dさん)
- ・ 大体21時前に子どもを寝かしつけると、一緒に寝てしまうことが多い。そうすると自分の落ち着く時間がない。小学生だと勉強の内容もどんどん難しくなっていく。また、年々自分の体力が落ちてくる点が大変。その影響もありやりたい仕事も自分の体力が続くかどうかが心配になる。(Eさん)

質問2) 日々の自由時間はどのくらいあるか。また自由時間はどうやったら作れそうか。

- ・ 子供が寝た後の時間で22時以降となる。子どもと接していない時間で、例えば職場での大人との会話の時間が息抜きになったりする。かなりストレスがたまった時には、有給休暇を取得し、一人で買い物に行ったりすることもある。日々の生活の中で隙間時間が1時間でもできればうれしい。(Dさん)
- ・ 子どもが寝てからの時間が自由時間となる。子どもが寝てからの時間があれば、わざわざ有給休暇を取得しなくても自由な時間は十分だと感じるようになった。子どもの病気や行事で有給休暇を取得することが多く、そのために職場への申し訳なさを感じる。その場その場で隙間時間を見つけて、自分の自由な時間として使うようにしている。そうした時間が少しだけでもあればうれしい。(Eさん)

質問3) 両親のサポートはどのくらいあるか。

- ・ 週に5日両親の所へ行くことが多い。帰宅場所を両親の家にしてもらっている。特に残業がある時には、子どもを実家で見てもらわないと無理である。(Dさん)
- ・ 両親と一緒に住んでいるが、日中はいない。自身が病院に行くとき等は、両親に子どもを見てもらっている感じ。平日は学童保育に通わせており、終わる時間に迎えに行っている。(Eさん)

質問 4) 外部のサポートは使っているか。こういうサポートがあったらいいなと思うものは何かあるか。

- ・ 例えば、延長保育等に対する利用料の免除等が助かる。メンタル面でのサポートが必要な子どももいるのではないかと感じる。両親では埋められない欲求があり、子どもの思いが爆発する時も、特に小さい頃はあった。(Dさん)
- ・ お金が必要だから働くが、その一方で子どもが寂しい思いをする。どっちかを優先するという事はかなり難しい問題だが、何とか子どもと接する時間もとりながら、仕事ができる環境が必要と感じる。(Eさん)

質問 5) 公的支援は何か使っているか。

- ・ 使っていない。NPOによる放課後デイサービスは使った。放課後迎えに来てくれて、その子に応じた支援を行ってくれる。最近利用者が増えてきており、それに伴い支援側の手が不足しており、サービスの低下も見られる。(Dさん)
- ・ 公的なサービスに関する情報がなかった。公的なサービスを利用するとしても、知らない人に預けるということに対して、最近色々な事件もある中で、そもそも使う気になれない。使わないで身内に頼る場合が多い。(Dさん)
- ・ 特に使ったことはない。有料でも使える所が山梨には少ないため、安くて利用しやすい所があると良いと感じる。小学生が思いっきり遊べる場所がない。(Eさん)
- ・ 本当に支援が必要な場合でないと中々使う気持ちにならない。知らない人に預けるという気になれない。子どもも不安を感じるのではないかと心配である。(Eさん)

質問 6) 子育て支援情報はどうやって入手するか。

- ・ 町の教育委員会でサポートの情報について聞いたりしている。分からないことがあれば電話で聞くこともある。子どものことについて分からないことがあった時に、町のいきいきセンターの保健師さんに電話で相談することもある。しっかりと調べた上で答えてくれるため、正しい情報を得ることができる。(Dさん)
- ・ 市の広報は見るようにしているが、子どもの同級生のママ友から情報を得る場合もある。子どもが小さい時には保健師さんに相談することもあった。子育てに熱心なママ友が情報を教えてくれることもあった。(Eさん)



### 3.5.社会的つながり①

➤ 1回目：8月29日（月）

対象者：Aさん 20代（県内大卒業生・大手コンビニエンスストア総合職）

Bさん 20代（県内大4年生）

Cさん 20代（県内大4年生）

➤ 概要 ※報告書では個人が特定されないよう匿名性を担保する。

質問1) コロナ禍で人と会う機会は減ったか。

- ・現在の仕事の関係で、従業員がコロナに罹ると困るので、何人かで一緒に会うということはほとんどない。大学3年生の春休みからコロナが広がり始めたので、リモート授業になり、人になかなか会えなくなった。卒業旅行も海外に行く予定だったが、海外に行くのは難しくなったので、結局行けなかった。（Aさん）
- ・実家は埼玉県で、両親が病院で働いていることもあり、私が感染源にならないよう、緊急事態宣言などの時は帰省を自粛した。（Cさん）
- ・感染対策はしながらも、世間の人よりもあまりコロナのことを気にせずに行動した。オンライン授業であることを最大限活用し、GoTo トラベルなども活用して車を使って全国一周旅行を楽しんだ。（Bさん）

質問2) 今まで人と会っていた時間はどのように変わったか。またその時間は何をしているか。

- ・以前は外に出ていた時間を、家の中で過ごしていたと感じる。ネット動画を見たり、友達とオンラインゲームなどもした。社会人になってからは研修もオンラインだったので、全国の仲間とオンライン飲み会、Zoom 飲み会をして、とても楽しかった。（Aさん）
- ・以前は友達とごはんを食べに行っていた時間が、ほぼ毎食自炊を頑張った。家での時間が増えたことと、趣味は旅行ということを生かして、家で世界遺産検定の勉強をした。（Cさん）
- ・家族と一緒に時間が増えた。オンライン授業が増えて、自分で英語の能力が落ちていたと感じたので、海外旅行、海外体験のつもりで、留学生にオンラインで英語で論文などの指導をするアルバイトをした。（Bさん）

質問3) その時間について満足しているか。

- ・私も自分に費やす時間が増えたと思う。登下校の時間が掛からない分、ギターをやろうかなとか、そういう視点を広げられた。（Aさん）
- ・自分を見つめ直すことができた。そうでなければもっと怠けていたと思う。周りからは学生のうちにもっと遊んでおいた方がいいといわれるので、もっと遊びたい。留学にもう一度チャレンジしてみたい。（Cさん）

- ・ コロナ禍でも自分のしたいことはできたのでよかった。コロナ禍前がよかったとはそれほど思わない。その時にできることをやろうと思ってきた。(Bさん)

質問4) コロナが流行る前は、どんな時に人と会っていたか。また会いたいと思ったか。

- ・ 埼玉の中学、高校の同級生とは、いつも今回会うのが最後だという気持ちで行っていた。懐かしい気持ちだった。心身の変化などについて「最近どうなの？」と声を掛け合い、私も頑張ろうと、楽しい気持ちになった。(Aさん)
- ・ 節目、節目に友達と会っていた。コロナ禍で3年からオンラインになり、ハロウィンやクリスマスパーティー、卒業というタイミングで集まった。あまり何度も会えなかった分、一回、一回、友達と会う時間が凝縮されていた気がする。(Cさん)
- ・ 友達の帰省のタイミングでよく会っていた。「山梨に帰ればBさんがいる」と、友達に選ばれるのがうれしく、山梨にいてよかったと感じた。(Bさん)

質問5) コロナ禍で人と会いにくいときに代わりになる機会はあるか。

- ・ コロナ禍でネット動画配信サイトに加入して、韓国ドラマなどを見るようになった。今思えば、日常になくなったものを求めていたような気がする。恋愛ものを見て恋愛をしている気になって、感情移入していた。(Cさん)
- ・ 人と会う気持ちになるのに、ぴったりなものはネット動画配信サイトだと思う。食事をする動画を見ながら、一緒に食事をする。そうした動画を見て共感したこともあった。(Bさん)
- ・ ネット動画配信サイトでアニメや映画を見た。もしかしたら、その世界に入り込んで楽しんでいたのかと思う。(Aさん)

### 3.6.社会的つながり②

➤ 2回目：9月7日（水）

対象者：Dさん 30代（美容師）

Eさん 30代（社会活動家）

➤ 概要 ※報告書では個人が特定されないよう匿名性を担保する。

質問1) コロナ禍で人と会う機会は減ったか。

- ・ 職業的に美容師をやっているため、会いたいという方がお店に来てくれる。特にコロナ禍の影響もあって、余計にお店に来てくれる機会が増えた。（Dさん）
- ・ SNSで発信していることもあり、そこから友達の様子が分かることもある。興味あることにつぶやいていたら、そこからダイレクトメールで繋がったりしていた。オンラインでの飲み会もやってみたが、あまり楽しさがなかった。それよりもやはりリアルで会う方が楽しいと感じた。（Eさん）

質問2) 今まで人と会っていた時間はどのように変わったか。またその時間は何しているか。

- ・ 人付き合いから離れて、逆に読書したり自身の中でのインプットが多く、オンラインサロン等、それまでであれば入っていなかったであろうコミュニティにも入った。そうしたコミュニティで新しい仲間ができた。そうした人たちはオンラインでの環境に慣れているため、居心地は悪くない。（Eさん）
- ・ SNSでの発信が増えた。人に会えないからこそ発信しようと思った。自分の仕事に対する技術の方に考えが移っていった。（Dさん）

質問3) その時間について満足しているか。

- ・ 空間に制限されなくても良いことに気付かされた。コロナ禍前は、自分がいる場所の範囲の中で親しい人がいるかどうかであったが、それが地球規模で繋がれる感覚になった。（Eさん）
- ・ 子育て中の友達にも声を掛けるようになった。会えないけれどもオンラインやSNSで繋がれていて、離れていないように感じていた。（Dさん）

質問4) コロナが流行る前は、どんな時に人と会っていたか？また会いたと思ったか。

- ・ 会いたくないなという気持ちの時には意識をする。元気な時の方がその気持ちを共有したい、皆と笑顔になりたいという気持ちになる。コロナ禍前の方が、気の合わない人も含めて色々な人と会っていた。今は親しい人と会うことが増え、その温度差がなく、自分が求めている人たちと会っている機会が増えたように感じる。年齢の問題もあるが、自分を高めることに共感できる人と会うことに時間を使いたいと感じるようになった。（Dさん）

- ・ 意識して人と会ってこなかったが、逆に意識して会うようになった。人と会って同じ温度を共有したいという気持ちで会いに行く、話を聴かせてもらいに行くという感じ。無意識に会っていた人とは逆に会わないようになったように思う。人と会えるチャンスが少ないからこそ、意識的に過ごそうと無意識に動いていると感じる。 (Eさん)

質問5) コロナ拡大で人と会いにくくなった今も同じように感じる機会はあるか。

- ・ オンラインで話す機会を設けてみて、いくら音声がかえっても実際にリアルで会うこととは違い、やはり実際に会うことが一番だと感じている。一緒に体感する空気感や温度が異なる。 (Eさん)
- ・ 寄り添いが無い。その時しかない瞬間の共有ができない。その場の同じ空気を吸っていないと分からないところもある。 (Dさん)

質問6) 全体を通して

- ・ 今まではこういう機会がなかったため、自分の気持ちを話す機会ができ、他の人にもその気持ちを発信できると感じた。(Dさん)
- ・ 今まで自分の気持ちを言語化したことがなかったが、結構整理してきたように感じる。新しいものにも出会った分、古いものを整理する機会となった。(Eさん)